



JCCA

Japan Civil Engineering Consultants Association

ズーム イン ちゅうぶ
図夢in中部

2022 Vol. 49

「オール浜松」が生んだ
日本最大級の防潮堤
—ダム技術を用いた海岸防潮堤の建設—



一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 中部支部

描けます、 あなたの夢を

協会コンセプト

協会会員は、豊かな未来に向けて
今なにをすべきか、
専門的知識を持って、
具現化のアシスタントを
いたします



C O N T E N T S

図夢in中部 Vol.49

目次

1 巻頭言

副支部長 1

2 特集

「オール浜松」が生んだ日本最大級の防潮堤
ーダム技術を用いた海岸防潮堤の建設ー 2

3 投稿

県職員2年目(通算21年目)になりました 10
熊本地震で経験した災害復旧工事について 10
入社2年目を迎えて 10
入社3年目を振り返って 12
昨今の土木分野で思うところ 12
「建設コンサルタント」って 12

4 支部会員会社紹介 14

5 協会活動紹介 16

6 会員名簿一覧 30

7 事務局だより 32

8 編集後記 33

—建設コンサルタントとDX—

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 中部支部
副支部長 牧村 直樹



はじめに

経済産業省「DXレポート」の公表から4年経ちました。建設コンサルタント各社は、生産性の向上と多くの社会課題を解決することを目的に、デジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでいます。

しかし、デジタル人材不足、レガシーシステムからの脱却が出来ないなどから、DXへの移行が難しい場合があるのではないのでしょうか。デジタル化からDXについて、私の一考を述べさせていただきます。

建設コンサルタントの現状

DXとはデジタルを使うことではなく、デジタルイノベーションを創れる競争優位な会社へと企業変革することです。デジタル化のステップには、①デジタイゼーション(アナログをデジタルに置き換える効率化)、②デジタライゼーション(デジタル技術やデータを活用した新しいサービスの提供)、③デジタル・トランスフォーメーション(DX、競争優位な会社への企業変革)の3段階があります。デジタル化が進んでいる会社でも②デジタライゼーション段階ではないかと感じます。メタバースに取り組む協会会員企業が増えています。

社会課題解決に繋げていくために

デジタル技術の急速な進化、新型コロナによるパンデミックなど、これまで経験したことがないような事象が起きています。このように予測困難な社会を表すキーワードとして、「VUCA時代」とも言われています。Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字を並べたもので、今日の社会は複雑化する様々な課題に

直面しています。

利害関係が絡みあう気候変動問題による大規模災害の頻発、感染症のパンデミック、日本の人口減少・少子高齢化問題などの社会課題の解決のために、協会として積極的に貢献することが必要です。技術者のマインドセットと技術イノベーションが不可欠だと思います。

デジタル化のステップを上げてDXへ

最近、AIを活用した種々のシミュレーションの開発(例:人流シミュレーション)、デジタルツイン・メタバースなどの言葉を耳にすることが多くなっています。協会全体で他業界と連携し変革をしなければならないと感じています。

サイバー(仮想)空間で計画を行い、リアル(現実)空間で実現する計画・設計が今後多くなると想像できます。定量的に現状を把握するための計測技術、リアル空間をサイバー空間で再現するためのセンシング技術が欠かせません。データを普遍的に活用するための正確性と、信頼できるオープンデータとして共有できる仕組みを確立することが必要です。社会インフラの現状、使用状況、気象・地形・地質などの共有データを活用して維持管理・災害対応・環境保全につなげることが、我々に期待されていることでしょう。協会は共有データの「トレーサビリティ」の確立、データ活用人材育成のためのスキルアップ研修が急務です。他業種が建設コンサルタント業界に入り込まないようにすることが必要なのです。

社会インフラの調査・計画・設計・維持管理において社会貢献をするために、私たち建設コンサルタントの知見を活かしましょう。建設コンサルタント協会中部支部各社の益々の発展を祈念します。

「オール浜松」が生んだ 日本最大級の防潮堤 — ダム技術を用いた海岸防潮堤の建設 —

静岡県 浜松土木事務所長 ひるせ さとし
廣瀬 聡



1 はじめに

(1) 着手までの経緯

静岡県西部の主要都市である浜松市の沿岸域には、多くの人口と資産が集中しています。この浜松市の沿岸域を、津波による災害から守るため、地元の篤志家、浜松商工会議所などからの寄付を主な原資として、天竜川河口から浜名湖までの浜松市沿岸域約17.5kmにかけて海岸防潮堤を整備することとなりました。

この事業は、海岸防災林を嵩上げて「レベル1津波高を上回る防潮堤」を整備するもので、レベル1津波高よりも高く、かつ粘り強い構造を持つ防潮堤の整備により、浜松市沿岸域の安全・安心を大きく向上させるため、浜松市域全体で合意形成を図りながら「オール浜松」で事業に取り組んできました。

本稿では、平成25年7月の試験施工から令和2年3月までのわずか7年間で竣工した「日本最大級の防潮堤」について、地域との合意形成、設計・施工、自然環境対策などに取り組んできた経緯などについて紹介します(図1)。



図1 浜松市沿岸域防潮堤

(2) 海岸環境との調和とダム技術の導入

浜松市の沿岸域は、一級河川天竜川に由来する長大な砂浜が広がっており、貴重な動植物(アカウミガメなど)や侵食が進む砂浜の保全、景観や利用面に対する配慮が強く求められています。また、砂浜の北側には海岸防災林が連続しているため、防潮堤はこの海岸防災林内に配置し、嵩上げすることを基本としました。

防潮堤の基本構造は、コアとなる中央部に、ダム技術として開発された「CSG(Cemented Sand and Gravel)」を台形状に配置して、その周辺を盛土とする構造を採用し、想定される地震や津波の外力に対して安定させるとともに、環境・景観面に配慮した海岸防災林の再生を可能としました(図2)。

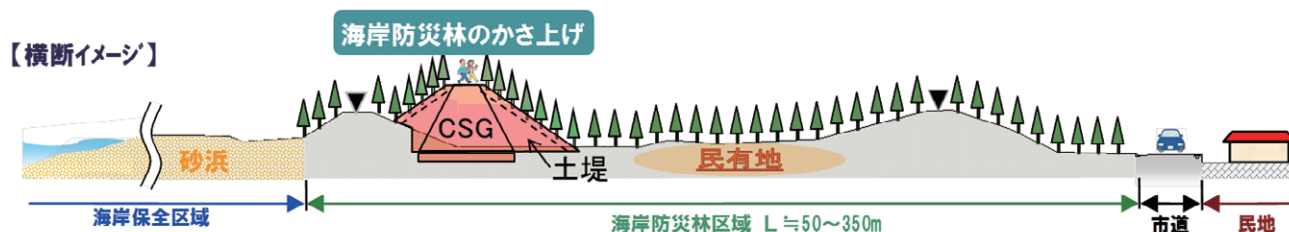
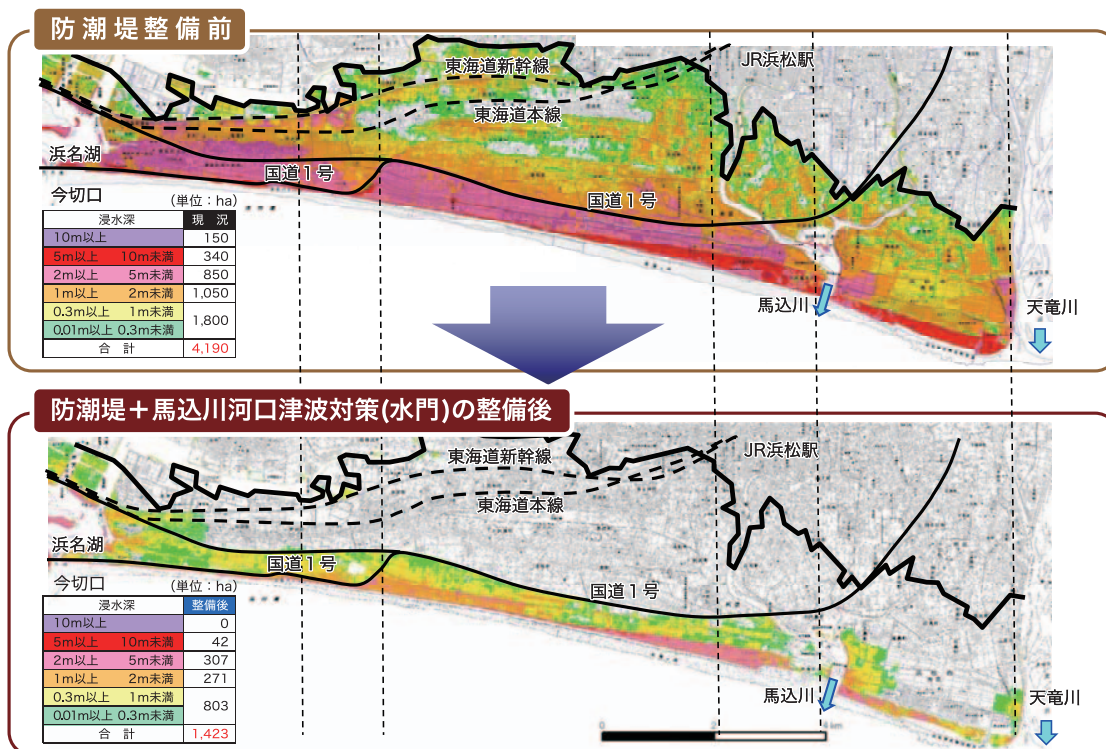


図2 浜松防潮堤の整備基本モデル(イメージ)

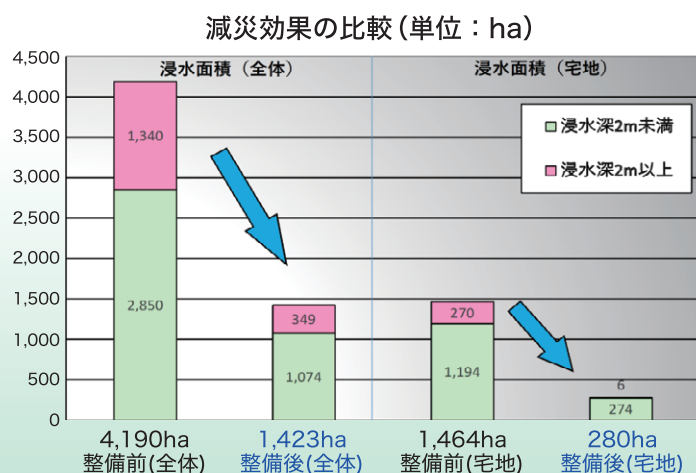
2 事業実施におけるポイント

(1) 防潮堤の減災効果

浜松市沿岸域で整備した防潮堤の高さは、レベル1の津波高を上回る標高13mから15mを基本としています。防潮堤整備の効果として、想定される南海トラフ巨大地震(レベル2地震)で発生する津波に対して、宅地の浸水面積を約8割低減し、さらに、木造家屋が倒壊する目安とされている浸水深2m以上となる宅地面積を98%低減させるという大きな効果が見込まれています(図3)。



減災効果の比較(浜松市 浸水面積: ha)



浸水深区分ごとの浸水域の増減(単位: ha)

【全体】	浸水深	整備前	整備後	増減
	2 m以上	1,340	349	-991
	2 m未満	2,850	1,074	-1,776
	合計	4,190	1,423	-2,767

【宅地】	浸水深	整備前	整備後	増減
	2 m以上	270	6	-264
	2 m未満	1,194	274	-920
	合計	1,464	280	-1,184

減災効果

- 浸水区域の減少!
・「宅地」の浸水面積を 約8割低減
- 浸水深の減少!
・「宅地」の浸水深2m以上を 98%低減

図3 予想される被害と防潮堤の効果

(2)防潮堤のルート

防潮堤を整備する浜松市沿岸域は、天竜川由来の長大な砂浜が広がっており、砂浜の北側には海岸防災林が連続しています。防潮堤の基本的なルートは、以下の3つの条件から、海岸防災林内の海側に設定しました(図4)。

- ①用地買収の不要な公共用地内のルートを基本として、早期完成を目指す。
- ②建設予定地には多くの希少種の生育場所があるため、これらの区域をできるだけ避けて配置する。
- ③砂浜は市の天然記念物に指定されているアカウミガメの産卵地でもあり、砂浜の改変はできるだけ避ける。

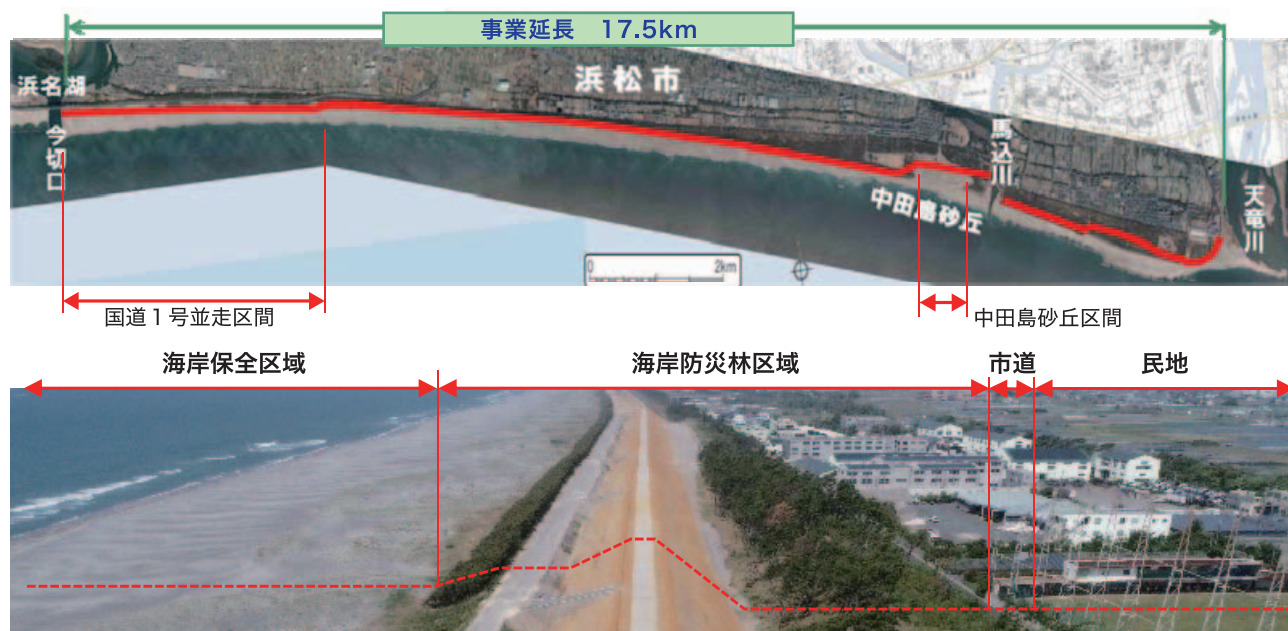


図4 防潮堤のルートと横断配置

(3)防潮堤の構造

本防潮堤の構造は、ダム技術として開発された「CSG」を中央に台形状に配置して、その両側を土砂や砂などで被覆しています。

これにより、想定される最大級の地震や津波に対して安定した構造となり、海岸防災林や砂浜の再生など、環境面・景観面にも配慮した構造とすることができました。

防潮堤は、区間毎に以下の3つのタイプの構造を基本としています(図5)。

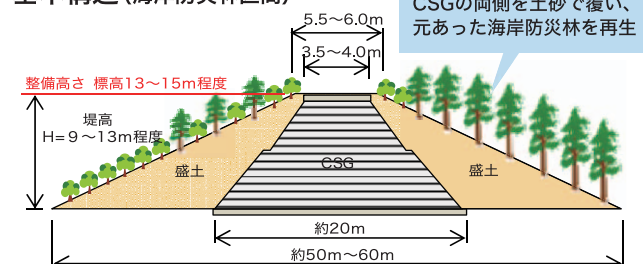
①基本構造(海岸防災林区間)

中央にCSGを台形状に配置することで、底面の反力を抑えることができ、剛性の高い構造物を砂地盤上に構築することを可能としました。

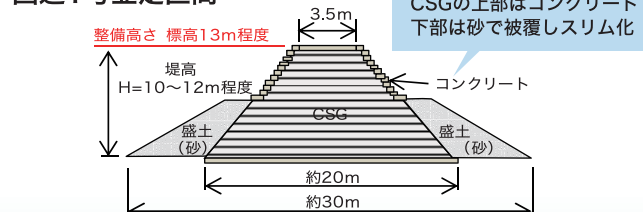
CSGとは、岩石質の材料にセメントと水を混合したものであり、土砂などの地盤や土質残量と比較して大きな強度を有する材料です。これにより構築される堤体は、浸透や越水による破壊に対する安全性の確保が期待されます。

また、このCSGの両側に盛土することにより、海岸防災林を復元し、防潮堤整備前の飛砂防止や防風の機能を維持することができます。

基本構造(海岸防災林区間)



国道1号並走区間



中田島砂丘区間

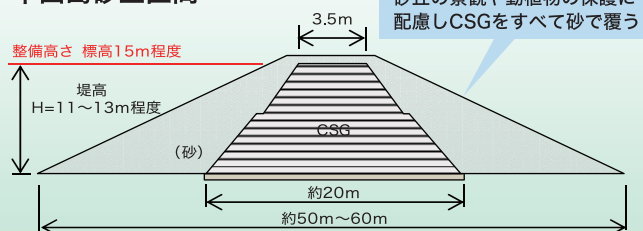


図5 防潮堤の構造

②国道1号並走区間

浜名湖の今切口から東に4kmの区間については、国道1号浜名バイパスが海岸線を走っており、ルート上の制約から、海岸保全区域である「砂浜」に防潮堤を建設しています。砂浜は貴重なアカウミガメの産卵場所であり、できる限り改変を避ける必要があります。

そこで、中央のCSGは基本構造と同様として、CSGの上半分を厚さ30cmの保護コンクリートで覆うことで、堤体の幅を狭くしました。さらに、本体の下半分を砂で盛土することで、砂浜の自然環境に配慮しました。

③中田島砂丘区間

中田島砂丘の延長約1kmの区間については、ルート上の制約から、海岸保全区域である砂丘内に防潮堤を整備しています。中田島砂丘は、浜松市の観光名所の一つであり、砂丘としての景観を復元するため、中央のCSGは基本構造と同様として、CSGの両側を砂で被覆する構造としました。

(4)地域一体「オール浜松」の取り組み

防潮堤の整備は浜松市沿岸域の広範囲にわたり、社会的な影響も大きいいため、浜松市域全体の合意形成を図りながら「オール浜松」で整備を推進しました。

防潮堤のルートや構造の選定については、設計の段階から地元自治会の要望や意見を反映するため、「推進協議会」を組織するとともに、一般の市民に広く防潮堤を認知していただくよう、浜松商工会議所と連携し「みんなでつくる防潮堤市民の会」を立ち上げ、横断幕やロゴマークなどを作成するなど、地域との連携により整備を進めました(図6)。



図6 『オール浜松』の推進体制

①防潮堤整備推進協議会

「防潮堤整備推進協議会」は、防潮堤整備を円滑に遂行するため、防潮堤計画の地域への周知を行うとともに、防潮堤事業者と地元住民などを結ぶ窓口の役割を担うことを目的に、平成24年12月6日に設立されました(写真1)。

委員は、沿岸域の地元15地区の連合会長で組織され、防潮堤のルートや構造など、設計段階から地元の要望や意見を取り入れながら整備を進めました。



写真1 推進協議会の様子

②委員会・検討会

防潮堤は、災害時の防災機能だけでなく、海岸の景観保全、土地の有効活用、住環境の保全にも大きく貢献することから、自然環境、植栽計画、景観デザインに関して地元・専門の学識者・行政等で組織する委員会・検討会を設置して、防潮堤の計画に反映しました。

そこで得られた意見を踏まえて、オオタカ、アカウミガメなどの貴重種、カワラハンミョウを対象にモニタリング及び対策を実施。その結果、防潮堤工事は環境に大きな影響を与えていないことを確認しました(写真2)。



写真2 左:委員会の様子 右:保全対象(上:カワラハンミョウ 下:アカウミガメ)

③みんなでつくろう防潮堤市民の会

「みんなでつくろう防潮堤市民の会」は、防潮堤整備を円滑に遂行するため、防潮堤に関する地域への周知を促進することを目的に、平成26年4月10日に設立されました。

会員は、浜松市自治会連合会の会長をトップとし、浜松商工会議所や防潮堤整備推進協議会、市民団体や業界団体など41団体が組織され、会員への防潮堤のPRや見学会の開催など、幅広く活動を行いました。

3 防潮堤竣工までの経緯

(1)事業の経過

防潮堤整備の契機となったのは、平成24年6月11日に、(株)一条工務店、静岡県、浜松市の3者で結んだ「三者基本合意」に始まります。

この合意により、一条工務店グループが、防潮堤整備の費用として300億円を寄付、静岡県は、浜松市沿岸域の約17.5kmに防潮堤を整備、浜松市は、防潮堤整備に必要な土砂を確保するとともに、防潮堤整備の理解促進のための住民や各種団体への説明を行うことが決まりました。

その後、平成24年9月に着手式が執り行われ、各種協議会や委員会の立ち上げから課題の検討、地域住民を巻き込んだ防潮堤の計画策定、設計・施工などを「オール浜松」の体制で推進し、令和2年度に防潮堤本体が竣工しました(表1)。

年	月	日	項 目	年	月	日	項 目
H24 (2012)	6	11	三者基本合意(一条工務店グループ・静岡県・浜松市)	H25 (2013)	10	7	阿蔵山からの材料運搬開始
	7	5	調査・測量・概略設計に着手		10	18	景観デザイン検討委員会 設立
	9	11	着手式(防潮堤整備事業に着手)		11	17	公聴会(意見募集に係る説明会)の開催(11/17~23計4回)
	12	6	防潮堤整備推進協議会 設立	H26 (2014)	3	19	篠原工区において本体工約5kmの本施工に着手
H25 (2013)	3	1	事業区域内の樹木の伐採及び工事用道路の建設に着手		4	19	みんなでつくろう防潮堤市民の会 発足
	3	22	防潮堤整備 説明会		6	12	安全祈願祭
	4	15	着工式(防潮堤工事に着手)	H27 (2015)	3	9	事業報告会の開催
	4	26	本体工の詳細設計に着手	H28 (2016)	4	27	浜松市防潮堤資料室 開設式
	7	2	植栽計画検討会 設立		7	24	篠原工区本体工事竣工報告会
	7	2	本体工の試験施工(五島・篠原で延長合計0.7km)に着手	H30 (2018)	3	27	第12回推進協議会において防潮堤の一部区間の嵩上げを報告
	7	16	防潮堤整備 説明会	R02 (2020)	11	15	竣工報告会
	9	13	自然環境検討委員会 設立				

表1 事業の経緯

(2)植栽工の施工

防潮堤延長の約7割は保安林区域内であり、防潮堤の施工時に伐採した海岸防災林を再生するため、盛土法面に植栽を行いました(図7)。

植栽する樹種は主にクロマツであり、海岸での耐性や地域性・市場性を考慮して植栽樹種を選定しました。植栽本数は全体で約37万本であり、平成27年度から令和2年度にかけて植栽を行いました。

植栽は、県が発注した工事のほか、市民が主体となった植栽イベント「市民植栽」や、地元団体が植栽から管理までを担う範囲を決めて植栽を行うなど、「オール浜松」で植栽を行いました(写真3、表2)。

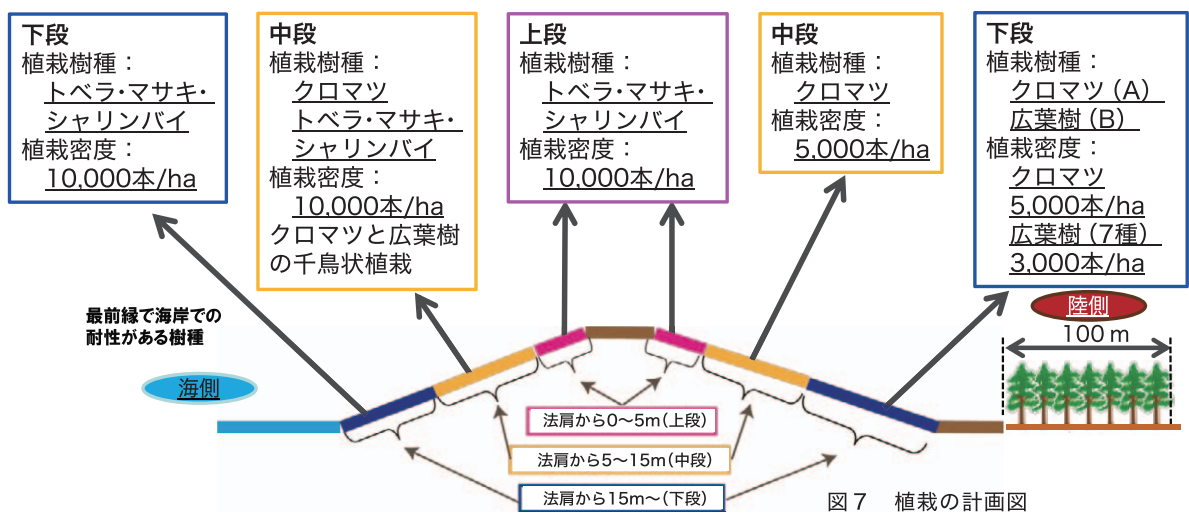


図7 植栽の計画図



写真3 左:市民植栽の様子 右:植栽が完了した防潮堤

年次	参加者数	植栽本数
H27春 プレ	3団体 約100名	300本
H27秋 1回	10団体 約300名	1,500本
H28春 2回	12団体 約380名	1,600本
H28秋 3回	8団体 約250名	1,500本
H29秋 4回	8団体 約250名	1,000本
R 1秋 5回	6団体 約120名	1,200本
計	約1,400名	7,100本

表2 事業の経緯

(3)防潮堤工事に伴う環境保全

浜松市沿岸域防潮堤は、法に基づいて実施する環境アセスメントの対象外ですが、工事が広範囲にわたるため、自然環境に大きな影響を与えないよう、環境調査及びモニタリング調査を行い、環境保全対策を実施しました。

防潮堤の周辺にある「海岸湿地」や「人口池」は、貴重な動植物が生息しており、県内有数の「生物多様性ホットスポット」となっています。

このため、防潮堤の整備に合わせて、外来種の駆除や、新たな池の設置などにより、多様な自然環境を創出し、ホットスポットの保全に取り組みました(表3、図7)。

保全目標種	工事前の状況	実施した主な対策
1 オオタカ	・工事箇所付近の松林で繁殖行動を確認	・目隠しシートの設置 ・コンディショニング(馴化)
2 アカウミガメ等	・工事箇所付近の砂丘で産卵を確認	・防潮堤ルート、構造の工夫(①) ・波の進入を防ぐ微高地の復元
3 海岸湿地に特有な貴重種	・工事箇所付近の池や湿地に多くの貴重種を確認	・防潮堤ルートの工夫 ・池の新設
4 カワラハンミョウ	・工事箇所付近(中田島砂丘)に生息	・防潮堤ルート、構造の工夫(②) ・生息地の創出

表3 環境保全対策における保全種と対策(※対策の丸数字は、写真内の番号に対応)

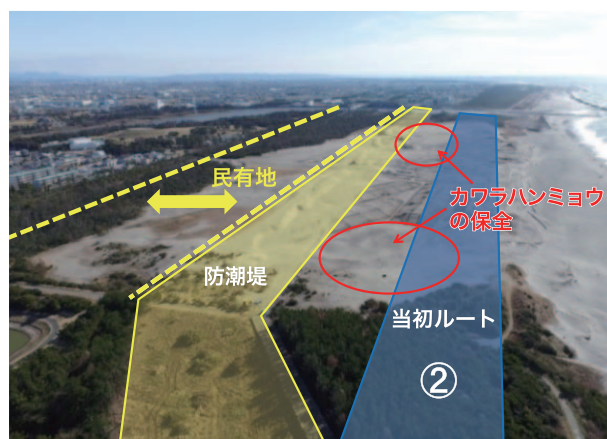


図7 環境保全対策の実施状況

また、防潮堤建設に合わせて実施してきた環境保全対策を、事業完了後も継続させることを目指して、関係する団体と連携しています。

近隣の高校など学校との協働では、実際のモニタリング調査を調査会社・高校生と共に行いました。

今後の活動継続に向けて調査手法を学び、また、民間企業や環境団体と協力して外来種の草取りを行い、絶滅危惧種である昆虫「カワラハンミョウ」の生息地の保全活動などを実施しました(写真4)。



写真4 地元の高校生との協働による環境調査

4 防潮堤の利活用と今後の展望

防潮堤は、遠州地域の白砂青松の海岸に沿って連続して造られた堤防であり、津波に対する十分な防災機能に加えて、平時は地域の憩いの場として利用され、周辺の環境や景観に馴染み、地域に親しまれ愛される施設となることが強く望まれました。

ここでは、平時の利用について防潮堤整備にあたって工夫した点について、中田島砂丘の防潮堤整備など、トピック的な項目をいくつか紹介します。

(1) 中田島砂丘(新たな砂丘の創出)

中田島砂丘内に整備した防潮堤は、CSGを全て砂で覆い隠す構造として、防災機能を確保しつつ、浜松の観光スポットとして相応しい施設整備を行いました。

防潮堤の整備により、標高15mの「新たな砂丘」が創出され、防潮堤の上からは、北を望めば富士山、南を望めば広大な遠州灘を見渡すことができ、絶好の観光スポットとなっています(写真5)。



写真5 中田島砂丘の景観

(2) 浜松まつり(凧揚げ会場の新たな展望スポット)

毎年ゴールデンウィークには「浜松まつり」が開催され、全国各地から多くの観光客が見学に訪れています。凧揚げ会場付近の防潮堤は、凧揚げ会場が全て残るルートとして、防潮堤の斜面にはスロープや階段を設置し、利用しやすい環境を整備しました。

令和元年5月の浜松まつりでは、完成した防潮堤の上を多くの方が観覧席として利用して、浜松まつりを見学していました。利用者からは、「防潮堤の上から凧が見やすく、とてもよい」というご意見を頂いています(写真6)。



写真6 左:浜松まつり会場と防潮堤 右:浜松まつり開催時の様子

(3) 浜松市沿岸域防潮堤の「静岡どぼカード」

静岡県では、魅力ある社会インフラを県民の皆さんに知ってもらい、実際に訪問するきっかけとなるよう、ダイナミックで特徴的な土木構造物などを掲載した静岡県オリジナルカード「静岡どぼカード」の発行を、平成30年度から始めています。

令和4年5月までに62種類のカードが発行されており、静岡県内の土木施設とその価値を、積極的にPRしています。

浜松市沿岸域防潮堤の「静岡どぼカード」は、令和元年11月に発行し、見学会などのイベントで配布しています(図8)。



図8 静岡どぼカード(浜松市沿岸域防潮堤)

5 おわりに

浜松市沿岸域防潮堤は、全長約17.5kmという長大な構造物であるため、それぞれの区間にそれぞれの特色や工事の制約条件がありました。

市民の生命や財産を津波から守り、防潮堤による事業効果を早期に発現するためには、これらの課題をスピーディーに解決する必要がありました。

それらの課題のひとつひとつについて、地域住民を含めた関係者が一丸となって課題解決に取り組んだ結果、防潮堤のルート変更や、構造に工夫を凝らすなどにより解決し、整備を進めることができました。

これは、防潮堤事業に多大な寄付をして頂いた地元篤志家や企業、地域住民の皆様、前例のない難工事を優れた技術力により、短期間で竣工した設計者や施工者の尽力の賜物であり、あらためて謝意を示したいと思います。

ただ、浜松市沿岸域の津波対策は、これで終わったわけではありません。

現在、中田島砂丘の東側を流れる二級河川馬込川の河口部において、津波対策水門を建設しています。

令和3年10月から、水門本体工事に着手し、令和9年度中の完成を目指して、工事を進めているところです(図9)。



図9 馬込川水門(イメージ図)

今後は、浜松市沿岸域の津波対策事業の総仕上げとして、水門建設事業を着実に推進するとともに、既に竣工した防潮堤の維持管理を適切に行い、浜松市民の生命と財産を守る要として、また、平時には市民が集い愉しめる憩いの場として、将来にわたって市民に愛され必要とされる防潮堤を次代に継承していきます。

県職員2年目(通算21年目) になりました



愛知県 尾張建設事務所
笹尾 郁子

愛知県に入庁して2年目になりました。昨年度に引き続き尾張建設事務所で砂防の工事を担当しています。

私は民間等経験枠の採用です。一昨年まで19年間、新潟県職員として主に河川と砂防に関する事業に携わってまいりましたが、社会人20年目の節目で故郷に戻って再スタートとなりました。故郷といえ長く県外におり愛知県情報は高校卒業時点で止まっているため、知らない土地に来了感覚に近く不安もありましたが、職場で飛び交う尾張弁を耳にして「帰ってきたんだなぁ」と実感する毎日です。

仕事は前職と変わらずすんなりいく部分もあれば、事務手続きや予算の管理方法など、同じ自治体といっても組織が変われば異なることが多々あります。設計書の図面の着色方法

熊本地震で経験した 災害復旧工事について



三重県伊勢建設事務所 流域一課
稲葉 昇吾

私は平成28年4月に発生した熊本地震の復興支援のため、平成30年度に1年間熊本県で災害復旧業務に携わっていました。配属先の熊本県県北広域本部阿蘇地域振興局では熊本県阿蘇市、南阿蘇村、西原村における熊本地震に関する災害関連緊急砂防事業及び災害関連急傾斜地崩壊事業等の多数の災害復旧を行っており、私は急傾斜事業1件と砂防事業3件を担当していました。

私が派遣されるまでもにも三重県から同所属先へ数名の三重県職員が派遣されて、地震発生直後から地元熊本県職員と協力しながら災害査定、設計、用地交渉、地元調整等を進め、最後に私が工事発注と監督業務を担当するリレー方式で復興支援を行いました。

その中でも特に印象に残りました急傾斜事業の工事監督について紹介します。

本工事は熊本地震により約10,000m³の斜面崩落が発生したため、斜面安定のためにジオテキスタイルを用いた補強盛土工を施工する工事でした。

本工事施工箇所には市町村が行っている小規模住宅地区

入社2年目を迎えて



株式会社アイエスシイ 営業部
志村 優介

私は現在の会社に入社する前は塾講師として働いており、小中学生に社会科や英語を教えていました。みなさんはヨハネス・デ・レーケという人物をご存知でしょうか？ヨハネス・デ・レーケは明治時代に、欧米の技術を日本に導入するために、お雇い外国人として招かれたオランダ人の土木技術者です。彼は木曾三川分流工事などに携わったことで、教科書で紹介されています。ヨハネス・デ・レーケは私の好きな人物でもあったので、授業で教える際には熱が入っていたのを思い出します。また、このところ業務の中で通学路というキーワードを聞くことが多くあります。形は違えど、子供たちの将来に貢献する仕事であることには変わりがないのかなと感じました。現在の仕事と以前の仕事とはまったく業種は異なりますが、不



だったり、同じ用語でも略し方だったり、細かい部分で様々な違いがあるため「新潟県ではこうだった」を「愛知県ではこうだ」と一つずつ改める作業は意外と苦勞しました。長年かけて身に付いたものは簡単に直らず、気を抜くと新潟用語がとびでることもあります。あまり神経質にならず、大勢に影響がないものであればのんびり直していこうと思うようにしています。

前職では河川改修、河川維持、砂防えん堤の工事といった通常業務のほかに、災害査定や被災地への派遣、湖沼の水質浄化事業、火山砂防事業、河川施設の長寿命化計画、防衛省の障害防止事業など、様々な業務を担当しました。これらの経験が今後の業務に直接役立つ機会はないかもしれませ

んが、業務で行ってきた資料作成やプレゼン、他機関協議や事業調整、そして様々な場面を経験して身に付いた度胸と忍耐力は何かしら役立つだろうと信じています。新卒の皆さんのような若さはありませんが、年を重ねたからこそその強みがあると思いますので、その辺を自分の持ち味として県職員22年目以降も毎日楽しく仕事をしていきたいと思っています。

改良事業と隣接し、作業工程の調整が必要となるため、全体工程に大きく影響する12,300m³の盛土材料の搬入工程の短縮を図り、工期内で工事を完了させることが重要な課題でした。

・工事概要:補強盛土工(高さH=6.0m、延長L=204m、補強盛土工A=2,250m²、盛土量V=12,300m³)

・工事期間:平成30年9月~平成31年3月

工事の実施にあたっては、工事用道路である村道の幅員が3.5mと狭いため、輻輳する隣接工事との工事車両のすれ違いが不可能であったことや盛土材の搬入路が阿蘇特有の火山灰粘性土であることから少量の雨でもトラフィカビリティが低下するため、安定処理工等の検討が必要となるなどの課題がありました。

そのため、村道管理者と協議し、工事用道路(村道)の幅員を3.5mから6.0mに拡幅することで工事車両の対向を可能にし、円滑で安全な工事車両の通行を実現し、また、運搬車両のトラフィカビリティの確保に向けて、軟弱土に石灰石を添加したことでコーン指数が大幅に改善され、常時の運搬が可能となりました。

これら以外にも不測の事態に備え一日でも早く現場を仕上げるため、受注者と頻繁に連絡を取りながら現場の遅延や手戻りが生じないようにワンデイレスポンスを心掛けるなどの対策を実施した結果、悪天候で作業ができなかった日もありましたが工期内に完成を迎えることが出来ました。

この経験から工事監督の際は常に現場の作業内容や進捗状況を把握し、具体的な目標をもってスケジュール管理することが重要であり、受注者とのコミュニケーションが非常に大切であることを学びました。

最後に1年間という短い期間でしたが未熟者の私を熱心に指導いただき、プライベートでも仲良くいただきました熊本県職員の方々、工事施工に関して快くご協力いただきました阿蘇地域の方々に心より感謝いたします。

また、これらの経験を三重県での仕事でも活かし、近い将来発生が予想されている南海トラフを震源とする巨大地震などの大きな災害にも迅速に対応できるよう、これからもより一層精進して参りたいと思います。

思議な縁を感じています。

さて、入社して2年目となりました。1年間を振り返ってみると、初めてこの業界に足を踏み入れて、不安なことだらけでした。とにかく少しでも仕事を進めなければならないと思い、機械的に作業をしていたことも多かったと思います。その結果、少しでもイレギュラーなことがあると対応できなかったり、焦ってミスをしてしまったりすることが非常に多かったです。しかし、上司や先輩の方々は、業務の進め方だけでなく、何を目的とした業務なのか、この業務が今後の業務にどうつながっていくのか、非常に根気強く教えてくださいました。まだまだそういったアドバイスを活かしきれているとは言えませんが、少しずつこの業務にはどういう意味があるのか、と自分なりに考え

ながら進めて行くように心がけています。

今年度は新入社員が4名入社しました。自分自身、上司や先輩の方々の親切なご指導が無ければ、頑張っただけでなかったと思います。非常に周りの方々に恵まれていると感じておりますので、今度は自分自身が後輩のみんなの力になれるように精進していきたいです。また、今までは経験豊富な方々から教わりながら、業務を進めていましたが、自分が主体となって引っ張っていかなければいけない機会も増えてくるでしょう。まだまだ教わることの多い身ですが、教えていただいたことを自分なりに解釈して、還元していくことを心がけていきます。なので、これまで以上に自分で考えて行動すること、またその結果を見つめ直し改善していくことを大切にしていきたいです。

入社 3 年目を振り返って



大同コンサルタンツ株式会社

伊藤 朱音

令和2年に大同コンサルタンツ(株)に入社し2年が経ちました。大学では環境系の学科に所属し、環境や建築、土木等幅広い分野について学んでいました。土木学科出身と比べ基礎知識が少なく建設コンサルタント業に入社することは不安もありました。また、入社時期には新型コロナウイルスが流行しだしたこともあり、これまでとは違う生活環境の中で入社することに対しても不安に感じる事が多くありました。

そんな中、入社直後の令和2年7月には豪雨による下呂の災害業務を経験しました。これまでテレビの画面越しでみてきたような災害現場を目の当たりにし改めて自然災害の怖さを思い知りました。これまでニュースで災害情報を見ても

昨今の土木分野で思うところ



中央コンサルタンツ株式会社 交通部

平間 雅也

土木分野は人々の生活基盤を支える必要不可欠な分野であり、私はその仕事に関わっていることに誇りを持って取り組んでいます。しかし、「土木分野は3K」と未だに厳しいイメージが定着している面もあり、他の分野に比べて、人気の低い業種であるという声も聞こえてきます。今後の土木業界を支える我々の仲間を増やしていくためにも、建設コンサルタントの仕事が魅力のあるものにしていくことが大事だと常に考えています。ここでは、私が仕事をしながら思うことを書きたいと思います。

まずは、土木設計におけるBIM/CIMの実態についてです。私が入社した平成26年頃は、既にICT関連等の新技術が様々な分野で活用されており、土木分野でもBIM/CIMについて耳にする機会が多くなってきた頃でした。数年後には3次元設計が

「建設コンサルタント」って



株式会社ニュージェック 中部支店 営業グループ

渋谷 浩司

私が建設コンサルタントの営業になって、25年が経ちました。長いこと『若手』と言われてきましたが、それも昔の話です。

建設コンサルタントで働いている人なら、誰もが経験あると思います。久しぶりに会った友人や親戚に「何の仕事をしているの?」と聞かれて、「建設コンサルタント」と答えても、「何?」と返ってきます。気分しだいで「土木設計、橋とか道路とか…の営業」、気分が乗らなければ「ゼネコンみたいな感じ…の営業」と答えていました。

「建設コンサルタント」って、どうも認知度、人気、ステータス、社会的地位がイマイチなのです。

そう言ったこともあり、周りを見渡しても私たちの業界は



正直「大変だな」とどこか他人事のように感じていました。しかし災害現場を自分たちで歩き、今後被災しないよう様々な視点から考え、設計を行っていく中で改めて建設コンサルタント業の重要性や地域を守る仕事をするのに対しやりがいを感じました。初めての災害検査では、下呂に1週間滞在して図面修正を行ったことは忘れられない思い出となりました。

また、入社してから2年の間には国交省業務にも携わらせて頂きました。この業務は、設計範囲が広く数日かけての現地踏査や、設計では多くの検討を行い、それに伴う打合せ等、この業務で様々な経験をさせていただきました。業務を進めるにあたり知識不足、経験不足な点が多々ありましたが、

上司や先輩の助けもあり2年間やり遂げることが出来ました。まだまだ知識不足な点ではありますが今後は設計に自分の意見をもって取り組んでいきたいと思っています。また、これまで自分の設計したものが完成した現場を見ることは出来ていないので、完成した現場を見に行くことを楽しみにしています。

入社以来、新型コロナウイルスの影響により社員旅行や球技大会、忘年会などの会社行事がなく寂しく感じています。コロナが落ち着いたら社内行事を目一杯楽しむとともに、技術者として成長したいと思います。

主流になり、私自身も最新技術を操る技術者になっていくのだろうと期待に胸を高鳴らせていました。しかし、実際はそのようなスピード感とは異なり、最近ようやくドローンによる3次元モデルを用いた設計業務や3Dプリンターを用いたモデル作成などを行う機会が増えてきたところで、まだまだ2次元で行う設計が多い状況です。3次元設計であれば、図面数量の自動化やマクロチェックなど、従来に比べて時間短縮やミス防止にも繋がる可能性が広がり、働き方改革にも寄与すると思いますので、現在、積極的に3次元設計に取り組み、知識を増やしています。

また、構造物等の点検業務に関しては、自動化による効果により大きいと感じています。私が行う点検業務では、人力作業が大半です。今後、AIやロボットなどでの点検が可能になれば

ば、変状や補修が必要な箇所を自動検知するなど効率化が図れるほか、高所作業や交通規制による影響を最小化するなど、安全面にも寄与すると思います。しかし、まだ知識も経験も足りませんので、今は技術や経験を高めつつ、身近なところからでも取り入れていこうと日々工夫しながら進めています。今後、点検業務が増加していくことを踏まえると、早急な対応が必要であると思っていますので、今一番関心を持って取り組んでいます。

これまで諸先輩方から引き継いできた技術や経験則の部分と、昨今の新技術を融合し、誰もが憧れる業界になることを夢見て、まずは、自身が満足する未来を目指し、日々奮闘しています。

高齢化が深刻な問題になっています。仕事がハード、残業が多い、休日出勤もある…。こういった条件に不況による採用減、なかなか定着しない等があいまって、私たちの年代がしばらく若手と呼ばれてきたのだと思います。

土砂災害・異常気象・地震・豪雨・線状降水帯、地球温暖化、これらの言葉を目にすることが多くなりました。いずれも我々建設コンサルタントが向き合ってきたものです。

入試や就職を控えた学生さんが『災害や防災』に興味を持ち、建設コンサルタントを知り、興味を持ってくれるようになりました。

支店の営業部門にも若手社員がやってきました。平均年齢が少しだけ下がりました。しかしながら、年齢構成の中抜け

は否めません。あの伝説のバックスクリーン3連発を知らない世代です。

今は電子入札がほとんどだけど、昔は紙での入札で役所まで行って、受注出来たら紙の設計書と青焼きの図面を持って帰って…。などと、若手社員に対するNGワードの『昔はこうだった』を連発しながら、逆に若者の感性に刺激を感じながら営業をさせていただいております。

建設コンサルタントの営業部門ではありますが、『自然と人を技術で結び、持続可能で快適な未来を創る』という使命感を持って、営業目線でお客様と対話し、安全で安心できる社会に少しでも、貢献出来ればと思っています。

日本工営都市空間株式会社

管理本部経営管理部総務課 梶山 隆治

1. 我が社のプロフィール

日本工営都市空間株式会社は、2022年7月1日に玉野総合コンサルタント株式会社と日本工営株式会社都市空間事業の組織統合により誕生した会社です。

玉野総合コンサルタントは1951年の創業以来「権威ある成果、品位ある行動」という行動規範のもと、土地区画整理を中心とした「まちづくり」を行ってまいりました。まちづくりをはじめ、道路・橋梁・河川・砂防・港湾・上下水道・ランドスケープなどの調査・計画・設計・施工管理・維持管理を行う総合建設コンサルタントとして社会に貢献してまいりました。

日本工営都市空間事業は1946年6月に設立された日本工営株式会社の都市空間事業を担い、建築、景観・都市設計、歴史的建造物の改修などを通じて広く社会に貢献してまいりました。

日本工営都市空間は、「土木×建築 まちづくり」として、土木・建築分野を融合したワンストップサービスの提供を目指しています。これまで蓄積してきた土木・建築領域に跨る技術と経験を活かし、公共を中心としたこれまでの業務領域をよりサステナブルに、そして生活者視点で深化させていくと共に、さらに発展させ、都市空間領域における都市の総合的なプロデュースに関わることで、近年の複雑化する都市課題の解決を図り、社会に貢献していきます。



写真1 本社工屋（名古屋市東区）

2. 我が社のイチオシ！

わが社のイチオシは、働く全従業員が高いパフォーマンスを発揮しやりがいをもっていきいきと働くことが出来る職場環境づくりのための様々な取り組みを行っていることです。

ワークライフバランスの実現を目指した職場環境の充実や、D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）への取り組みをさらに推進させていくため、2018年にD&I委員会を組織し、同委員会の活動を通じて社員の個性や価値観を尊重し、個人の持つ能力を最大限に発揮できる環境整備に取り組んでいます。

2021年には次世代育成支援対策推進法に基づく特例認定マーク「プラチナくるみん」を取得することができ、「子育てサポート企業」としてより高い水準の取り組みを行っている企業として評価されました。

今後も従業員全員がいきいきと働き、会社を通して自身の幸せを感じられるよう、働き方の見直しや男性・女性問わず仕事と子育てが両立できるよう積極的に取り組んでまいります。



写真2 プラチナくるみん認定マーク

3. 最近のトピックス

当社は環境配慮への取り組みも積極的に行っています。2021年11月には「なごやSDGsグリーンパートナーズ」に認定され、絶えず環境に対する問題意識を持ち、環境への負荷を出来る限り軽減することを基本方針とし、持続可能な社会の実現へ向けて、次世代に責任を持った企業活動を推進しています。

また、毎週金曜日には本社周辺の清掃美化活動に取り組む、活動を通じて「きれいで快適なまちづくり」を進めています。名古屋都市美化連盟への加盟やボランティア・サポート・プログラムへも参加。2022年3月には同プログラムによる「名古屋ウィメンズマラソン前ボランティア清掃」に参加し、コース上を清掃することで大会運営をサポートしました。



写真3 ボランティア清掃活動

4. 執筆者からひと言

当社はこの7月に組織統合し、新たな歴史の1歩を踏み出しました。「土木×建築 まちづくり」として都市の総合的なプロデュースを通じて地域社会に貢献できるよう努めてまいります。

八千代エンジニアリング株式会社 名古屋支店

業務企画部 津野 博司

1. 我が社のプロフィール

八千代エンジニアリング株式会社は、昭和38年の高度経済成長時に設立し、来年1月で60周年を迎えます。弊社は「千代に八千代に生き続け、未来永劫に渡って、人類社会のために貢献し発展してほしい」という社名の由来を胸に、よりよい社会の実現に向けて挑戦し続けております。

【主な事業登録】

建設コンサルタント、測量業、一級建築士事務所、
地質調査業等

HPリンク先は下記の通り

<https://www.yachiyo-eng.co.jp/aboutus/profile/>

【主な事業領域段階】

土木、建築、機械、電気等に関する調査、解析、計画、設計、施工管理、維持管理

【主な拠点地域】

本店、国内事業部（東京）、海外事業部（東京）、北日本支店（宮城）、北陸支店（新潟）、名古屋支店、大阪支店、広島支店、九州支店（福岡）など。

HPリンク先は下記の通り

<https://www.yachiyo-eng.co.jp/aboutus/office/>



写真1 名古屋支店 社屋ビル

2. 我が社のブランドロゴの紹介

ここでは、社内の交流の取組事例を（例えばクラブ活動や飲み会、社内旅行など）紹介したかったのですが、近年のコロナ情勢によって中止や中断、開催延期を余儀なくされております。そのため、近年の社内の話題として、我が社のブランドロゴについてご紹介したいと思います。右上に掲載しているマークが会社のブランドロゴになります。



紙飛行機をモチーフにした新たなブランドシンボルです。2018年より「この世界に、新しい解を」をビジョンに掲げた長期経営方針（2018-2027）が開始され、そのシンボルマークとしてブランドロゴを作成しました。またそれに合わせて名刺のデザインを一新し、2020年4月より使用を開始しています。



写真2 当社の現在の名刺

3. 最近の取り組み事例の紹介

弊社は静岡県にある三保の松原で毎年、清掃ボランティアに参加しております。三保の松原はご存じの通り2013年6月に「富士山-信仰の対象と芸術の源泉-」の名称で「世界文化遺産」に登録されました。三保の松原が名勝や世界遺産として現在まであり続けるのは、地域を愛する地元住民、市民団体や関係者の方々が力を合わせて松原を守ってきた証拠です。今後もボランティアとして活動し続け、世界遺産「三保の松原」の素晴らしい景勝地を後世に残してまいりたいと思います。



写真3 清掃中及び清掃後の三保の松原

4. 執筆者からひと言

近年災害による被害が多く発生し、また少子高齢化に伴う人口減少による地方の疲弊、社会インフラの老朽化など建設コンサルタントをとり巻く社会環境は、更なる迅速な対応が求められております。より良い社会資本を提供し続けるために、自分も微力ながら引続き業務に邁進してまいります。

総務部会 運営委員会

運営委員長 小木曾 武則

運営委員会の活動としては、総会、協議会を始めとし各委員会の企画、立案、運営が円滑に進められるよう活動を行っています。

以下に昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和3年度下半期の主な活動報告

■カルチャーセミナー

「建設コンサルタントフェア2022in中部」の基調講演をカルチャーセミナーとして行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により中止。

■コンプライアンス講習会、賀詞交換会

新型コロナ禍のため中止

令和4年度上半期の主な活動予定

■定時総会受付支援

- 日 時：令和4年4月28日(木)
- 場 所：KKR名古屋

■カルチャーセミナー

「建設コンサルタントフェア2022in中部」の基調講演を開催予定

- 日 時：令和4年10月22日(土)14:00～
- 場 所：名古屋都市センター
- 講 師：名古屋工業大学 都市基盤計画分野研究室
秀島 栄三 教授
- 講演内容：「コンパクトシティの実質化にむけて」
を講演いただく予定

■コンプライアンス講習会

- 日 時：令和4年11月14日(月)
- 場 所：名古屋ガーデンパレス
- 内 容：(一社)全国上下水道コンサルタント協会中部支部、(一社)中部地質調査業協会、(一社)日本補償コンサルタント協会中部支部、(一社)愛知県測量設計業協会の5協会共催で、公正取引委員会より講師を派遣頂き、講習会を行う予定

総務部会 災害対策委員会

災害対策委員長 木田 末雄

災害対策委員会では、災害時対応訓練に関する事項を分掌しており、行政機関等8団体と締結している災害時支援協定内容の適宜見直し及び支援協定先との協議並びに災害時に備えた情報伝達訓練の企画・運営等の活動を実施しています。

以下に昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和3年度下半期の主な活動報告

■名古屋高速道路公社との災害応急対策支援協定に関する意見交換会

- 実施日：令和3年11月8日(金)14:00～
- 会 場：建コン協中部支部会議室 ⇒ Web会議
- 参加者：名古屋高速道路公社、建コン協中部支部、支援協力社班長、愛知県建設業協会、日本橋梁建設協会

■名古屋港BCP協議会

- 実施日：令和3年12月3日(金)14:00～
令和4年2月9日(水)10:00～
- 会 場：名古屋港湾会館3階第2会議室
- 参加者：名古屋港BCP協議会構成員

■名古屋高速道路公社との緊急通行車両等の事前申請について

- 実施日：令和4年1月27日(木)14:00～
- 会 場：建コン協中部支部会議室 ⇒ Web会議
- 参加者：名古屋高速道路公社、建コン協中部支部

■木曽川上流河川主催の緊急物資輸送合同訓練

- 実施日：令和3年3月6日(日)9:30～
⇒ コロナ禍により令和4年度に延期
- 会 場：長良川防災船着き場(河口から約28km)
- 参加者：中部地方整備局、木曽川上流・下流河川事務所、岐阜県建設業協会、岐阜県トラック協会、建設コンサルタンツ協会、陸上自衛隊第10師団、岐阜県、羽島市、岐阜大学、水資源機構

■「令和3年度災害時会員連絡名簿」作成のため 支部会員へアンケート調査依頼

- 実施日：令和4年3月24日(木)

■災害対策委員会の開催

- 実施日：令和3年12月1日(水)、令和4年2月16日(水)

令和4年度上半期の主な活動予定

■中部支部災害時会員連絡名簿の作成

支部会員からのアンケート調査結果を基に支援内容の追加、修正、確認を行い、行政機関8団体の「令和4年度災害時会員連絡名簿」を作成し、協定締結先へ配付を予定

■災害時対応演習

- 実施日：令和4年9月1日(木)
- 災害対策現地本部：中部支部

■名古屋市との災害時対応訓練に係る事前説明会

- 実施日：令和4年8月下旬予定

■名古屋市との災害時対応訓練

- 実施日：令和4年8月下旬予定

■名古屋高速道路公社との災害応急対策支援協定に 関する意見交換会

- 実施日：令和4年9月中旬予定

■岐阜県との災害応援協定連絡会議

- 実施日：令和4年5月25日

■静岡県との出動要請・応援訓練

- 実施日：令和4年8月中旬～9月初旬

■災害対応・BCP検討WP

- 建コン協本部と支部との災害時対応演習等の協議

■木曽川上流河川主催の緊急物資輸送合同訓練

- 木曽川上流河川事務所主催の合同訓練の参加

■上記に係る委員会の開催を予定

対外活動部会 対外活動委員会

対外活動委員長 庄村 昌明

対外活動委員会では、発注者との意見交換会を中心に、関係行政機関の窓口として活動しております。昨年度の岐阜県県土整備部との意見交換会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、中部地方整備局をはじめ中部3県との意見交換会の開催ができました。今年度も意見交換会を通して、協会会員の声を発注者に伝え、課題解決に向けた取組みを進めてまいります。

令和3年度下半期の主な活動報告

■中部地方整備局との意見交換会

会議時間を1時間30分として、対面で開催しました。

- 開催日：令和3年12月2日(木)
- 場 所：名古屋銀行協会会館 402号室
- 出席者：中部地方整備局 林企画部長はじめ11名
中部支部 上田支部長はじめ17名
- 議 題：・履行期限(納期)平準化と標準履行期間確保
・ウィークリースタンスの徹底
・BIM/CIMの運用拡大と実施における支援要請
・災害時業務支援における環境整備
・橋梁定期点検の作業実情に即した費用面改善
・若手・女性技術者の育成など



中部地方整備局との意見交換会

■三重県県土整備部との意見交換会

三重県庁と中部支部会議室をWebで接続し、会議時間を2時間として開催しました。

- 開催日：令和3年11月25日(木)
- 場 所：Web会議(三重県庁⇄中部支部)
- 出席者：三重県 佐竹副部長はじめ7名
中部支部 中村副支部長はじめ11名
- 議 題：・担い手確保/就業環境の改善
・品質の確保・向上
・その他(BIM/CIMへの取組みなど)

■愛知県建設局との意見交換会

会議時間を1時間30分として、対面で開催しました。

- 開催日：令和3年12月17日(金)
- 場 所：愛知県東大手庁舎 大会議室
- 出席者：愛知県建設局 廣瀬建設企画課長はじめ16名
中部支部 上田支部長はじめ14名
- 議 題：・担い手確保・育成／就業環境の改善
・品質の確保・向上
・その他(BIM/CIM等)

■静岡県交通基盤部との意見交換会

静岡県庁と中部支部会議室をWebで接続し、会議時間を2時間として開催しました。

- 開催日：令和3年12月22日(水)
- 場 所：Web会議(静岡県庁⇄中部支部)
- 出席者：静岡県 内山参事はじめ10名
中部支部 牧村副支部長はじめ13名
- 議 題：・担い手育成・確保のための環境整備
・品質の確保・向上
・その他(セキュリティ対策等)

■建設技術フェア「学生交流ひろば」への出展

「建設技術フェア2021 in中部」の「学生交流ひろば」において、建コン中部支部ブースを出展しました。対外活動委員会で準備・運営を行い、建設コンサルタントの技術者(技術部会、若手の会、女性の会：計16名)が学生の個別相談に応じ、業界の役割や目指す姿など、建設コンサルタントに関する情報を伝えました。今回ブースを訪問した学生は2日間で225名と、昨年の144名に比べ、大きく増加しました。



建コン中部支部ブースの様子

■建コン本部委員会(各種調査)への対応

建コン本部「地域コンサルタント委員会」の依頼により、以下の調査を実施しました。

- ・中部地整管内総合評価方式(一括審査方式)調査等
- ・発注者ウィークリースタンス等施策の実態調査

令和4年度上半期の主な活動予定

令和4年度上半期は以下の活動を予定しております。

■令和4年度「要望と提案」中部地方意見交換会(9/5)

■建設技術フェア2022in中部(学生交流ひろば)

(10/4～10/5開催予定、場所：ポートメッセなごや)

今後も発注機関との連絡・調整を中心とした活動により、協会活動が円滑に進行できるよう努力してまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

対外活動部会 編集委員会

編集委員長 伊藤 博之

編集委員会の活動は、広報誌「図夢 in 中部」を年2回（1月、8月）編集・刊行することにより、中部支部における諸活動の状況及び新規事業等を主に、建設コンサルタントに関する各種の情報を会員各社及び官庁、大学の方々に提供しています。

令和3年度下半期の主な活動報告

■「図夢 in 中部 Vol.48号」の発刊

2022年1月発刊に向けて48号の編集を行いました。内容といたしましては、

- 業務技術発表 2021年度の第一会場および第二会場で行われました発表会で最優秀賞及び優秀賞の計6編を掲載いたしました。
- 巻頭言は、上田支部長に執筆いただきました。
- 投稿は、愛知県・中津川市職員の方に執筆いただき、会員の投稿は4名頂きました。
- 協会活動紹介は、部会報告・各委員会の2021年度上半期の活動報告と2021年度下半期の活動予定を記載しております。
- 事務局だよりは、「令和3年度RCCM」資格試験、「品質セミナー品質の確保・向上に向けて」「中部ブロック災害復旧事業講習会」につきまして、記載をしております。



図夢 in 中部 Vol.48 号

令和4年度上半期の主な活動予定

■「図夢 in 中部 Vol.49号」の発刊

2022年8月発刊に向けて49号の編集を行っております。

- 6月22日に編集委員会を行い、各項目につきまして確認を行っていきます。

編集委員会では、中部支部の活動状況や情報を「図夢 in 中部」とHPを通じて紹介しています。

(<http://www.ccainet.org>)

今後も会員皆様からのご支援を頂き、活動状況をわかりやすく、親しみやすい内容で提供していきたいと考えています。

対外活動部会 事業広報委員会

事業広報委員長 木村 孝延

事業広報委員会では、建設コンサルタントが「安心・安全・快適な暮らし」を実現するためにどのような役割を担い、どのように貢献しているかを広く一般の方々にご理解いただけるように、また学生の方々に對して業界の知名度を上げ、次代を担う技術者を確保するために、社会貢献活動を通じて業界活動をPRしていくことを目的として、これらの活動の企画・運営を行っています。

以下に昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和3年度下半期の主な活動報告

■業界説明会の実施

中部地区の9大学・2高専で業界説明会の実施を計画していました。対面での実施がますます難しくなりましたが、3大学・1高専で実施することができました。



業界説明の様子

今回の説明会から、本部から提供されている説明会用のPPT資料を委員会で独自に編集し、アナウンスを入れた10分程度のPR動画を作成しました。この動画を上映することで、説明会に割り当てられる時間が短い学校や、Web上での開催を求められた場合の対応として今後も活用できればと考えています。

■協会広報誌の配布

図夢 in 中部などの協会広報誌等の関係各所への配布については郵送での対応となりました。

委員会では送付先の変更や確認作業を実施し、送付先リストの更新を行っています。

■建設コンサルタントフェア2021

令和3年度のコンサルタントフェアは開催中止となりました。

■広小路夏祭り「打ち水大作戦」への参加

広小路夏祭り自体が中止となり、参加できませんでした。
また、打ち水大作戦の事務局も変更になり次年度以降の参加についても今後注意が必要となります。

令和4年度上半期の主な活動予定

■建設コンサルタントフェア2022の開催

令和4年度も建設コンサルタントフェアの開催に向け活動していきます。

- 開催日時: 令和4年10月22日(土)
- 会場: 金山総合駅コンコース
名古屋都市センター 14F特別会議室
- 展示内容: 建設コンサルタントの役割パネル展示
フォトコンテストの開催

昨年度は中止となりましたが、今年度は「出来る内容」での開催に向け協議しています。積極的な集客は行えませんが、できるだけ多くの方に見ていただけるよう工夫できればと考えています。

■広小路夏祭り「打ち水大作戦」への参加

事務局が名古屋市環境局内に変更となり、現在開催の有無について確認中です。開催する方向で調整中との事なので、今後の動向について注視していきます。

■業界説明会の実施

引き続き各校に対し説明会の開催可否について問い合わせを行います。

今年度はすでに大同大学で5/27に開催し、約50名の学生に参加頂きました。

年々対面形式での開催が難しくなっていますが、次代の担い手を確保するための重要な機会だと認識し、継続的な活動を続けます。

業界説明会の開催方法については、本部の広報専門委員会でも議題に上がっており、全国的に対面以外の方法を求められることが多くなっているようです。そのような状況の中で学生たちにPRできるようパンフレット・ポスターの配布や、PR動画の制作など意欲的に活動頂いています。提供された資料を有効活用し、今後の活動に繋げていければと考えています。

■業界広報誌の配布

会員名簿や図夢in中部など協会会報誌の配布のお手伝いを行います。

コロナの影響で手渡しでの配布から郵送方式に変わりましたが、配布先リストの更新等を行います。

情報部 情報委員会

情報委員長 鹿田 竜一

情報委員会は、支部会員企業および広く一般向けに、支部活動状況の発信や支部内情報インフラの整備など、情報通信分野に関する活動を行っています。

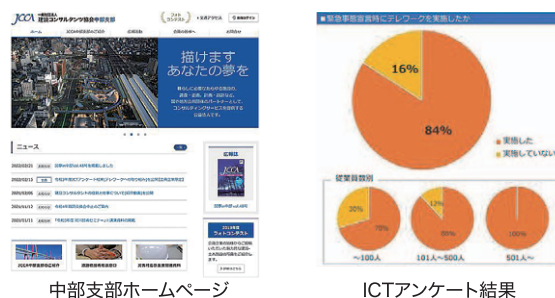
令和3年度下半期の主な活動報告

■ホームページ運用管理

定期的な情報発信に加え、図夢in中部の掲載、講習会等の資料および動画を掲載しました。

■ICTアンケートの結果公開

上半期に実施したアンケート結果を集計して、分析した結果を支部会員企業に公開しました。



■支部内情報インフラ整備

オンライン会議の普及に合わせ、支部内の情報通信機器などを更新しました。

■ICT相談担当者

支部事務局および各支部・委員会からの、ICTに関する相談を受け付け、対応しました。

令和4年度上半期の主な活動予定

■ホームページの運用管理

定期的な情報発信に加え、図夢in中部の掲載、講習会等の資料および動画を掲載します。

■フォトコンテストの実施

コロナ禍により2年間、中止を余儀なくされたフォトコンテストを開催します。『私のお気に入りの風景(土木施設)』をテーマとして会員企業を対象に募集・表彰します。

■ICTアンケートの企画

会員企業に有益となるICT関連情報を収集して共有することを目的としたアンケートを企画します。

■ICT相談担当者

支部事務局および各支部からの、ICTに関する相談を受け付け、対応します。

■その他

当委員会への要望などございましたら、メールでお気軽にご相談ください。

(情報委員会メールアドレス:johou@ccainet.org)

情報部会 ICT委員会

ICT委員長 佐藤 貴章

ICT委員会では、ICTに関する情報収集と共有、講習会の開催、関係機関との連絡調整等を通じ、支部会員へのICT普及支援を目的とした活動を行なっています。

令和3年度下半期の主な活動報告

■BIM/CIMセミナー(Web配信)

支部ICT委員会主催により11/25(木)に開催し、26社54名に参加いただきました。BIM/CIMを実業務に適用する方法や推進を目的とし、BIM/CIMの概要説明、CIMツールの実演を行いました。



Webセミナーの配信状況



Webセミナー 講習画面

■愛知県i-Construction推進協議会への参加

愛知県からのご依頼により、11/26(金)に委員長・副委員長の3名で参加しました。協議会には、県担当者、建設部門の各業界団体代表者が参加し、ICT工事の推進状況や課題、BIM/CIM試行に向けた意見交換等を行いました。

■発注者との意見交換会

BIM/CIMの普及に関する発注者との定例意見交換会や職員研修に参加しました。意見交換会では、国土交通省中部地方整備局、愛知県、三重県、静岡県の各担当者とBIM/CIM導入状況などについて意見を交わしました。また、意見交換会資料として、BIM/CIMに関する会員アンケートを実施し、取りまとめを行いました。

令和4年度上半期の主な活動予定

■BIM/CIM・DXに関する講習会の開催

昨年度に引き続き、支部会員へのBIM/CIMやDX関連情報の提供、および技術力の向上を目的とした講習会の開催を予定しています。コロナ禍による感染状況もありますが、Web講習会に加え、ハンズオン形式による対面講習会の開催を考えております。

■発注者との意見交換会、等

協議会や意見交換会に積極参加し交流を継続します。

■その他

当委員会への要望などございましたら、メールでお気軽にご相談ください。

(ICT委員会メールアドレス: ictc@ccainet.org)

技術部会 道路委員会

道路委員長 水野 耕治

道路委員会では、講習会・見学会・講師派遣等の技術交流を通じて、道路関連事業に従事する技術者の技術力の向上を図るとともに、建設コンサルタントフェア等を通じて建設コンサルタントの役割が広く理解されていくことを目的として活動しています。

なお、令和4年度の道路検討グループへは、36社204名(令和3年度 39社201名)のご登録をいただきました。以下に令和3年度下半期の主な活動と令和4年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和3年度下半期の主な活動報告

■定例委員会の開催

下半期は10～12月にWeb併用で3回開催し、役員会報告、業務技術発表会報告、対外活動報告、次年度道路検討グループ総会準備等について議論を行った。

■第2回 道路技術講習会

●開催日: 令和3年11月24日(水) 14:00～17:00

●場 所: TeamsによるWeb配信

●内 容: ①道路構造令の解説と運用の改訂

建コン道路委員会 水野 委員長

②交差点歩行者の安全対策事例

積水樹脂(株) 山下 氏

③災害復旧対策事例

ヒロセ補強土(株) 白川 氏



Webの配信状況



講師による講演状況

令和4年度上半期の主な活動予定

委員会や技術講習会等については、新型コロナにともなう制限状況を見据えつつ、Web会議形式を採用しながらの活動を予定しています。

■委員会活動

委員会は4～12月に毎月1回、計9回の活動を予定しています。活動方針、技術講習会及び現場見学会の運営方針、道路技術に関するトピック、対外活動等の準備について議論していきます。

■令和4年度道路検討グループ総会

- 開催日: 令和4年7月5日(火) 13:30～17:00
- 場 所: 建コン中部支部会議室(事務局)
- 内 容: R3年度活動報告及びR4年度活動方針
(基調講演/Web配信)
- 演 題: インフラDXの実装
- 講 師: 名古屋工業大学 都市基盤計画分野研究室
秀島 栄三 教授

■技術講習会

開催は、9月頃と11月頃の2回を予定しています。講習内容は、維持管理・防災・CIM・新技術・新工法等をキーワードに委員会でテーマを検討していきます。

■現場見学会

開催は、10月頃を予定しています。見学場所は中部地方で行われている土工事・構造物工事現場やメーカーの工場見学等を予定しています。

■講師派遣

1) 中部地整エキスパート研修

- ・トンネル点検(1講座、1名)
- ・のり面・土構造物点検(1講座、1名)

2) 愛知県建設技術研修・道路計画実務講座

- ・道路構造令、交通量推計、ペーパーロケーション、平面交差点設計(4講座、5名)

3) 愛知県建設技術研修・設計エラー防止講座

- ・道路/トンネル(1講座、1名)

4) 愛知県建設技術研修・土木施工技術講座

- ・盛土、切土の設計と法面の安定(1講座、1名)

5) 三重県建設技術研修

- ・道路構造令の解説と演習(1講座、1名)
- ・平面交差点の計画・設計、排水(1講座、1名)
- ・函渠・擁壁設計と演習(1講座、1名)

技術部会 河川委員会

河川委員長 石崎 伸明

河川委員会では、河川の専門技術に関する交流活動、現地見学会、技術セミナーの開催、業務技術発表会への参加等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図るとともに、協会活動の推進、中部地整との意見交換会等によって、コンサルタントの地位向上ならびに河川業務の円滑な実施のための環境づくりを目指し、活動しております。令和3年度は、河川検討グループへ32社227名のご登録をいただきました。

以下に、令和3年度下半期の主な活動と令和4年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和3年度下半期の主な活動報告

■河川委員会

委員会は10月から12月までに計3回開催し、活動計画の策定と報告等を行いました。

■河川技術セミナー

- 開催日: 令和3年11月17日(水)
- 会 場: ウィンクあいち
- 開催方法: Web配信(オンラインセミナー)
- 講 師: ①国土交通省 中部地方整備局 企画部
建設情報・施工高度化技術調整官
油井 康夫 氏
『インフラ分野のDX推進について』
②名古屋大学 地球水循環研究センター
坪木 和久 教授
『激甚災害をもたらす台風と
豪雨の現状と将来変化』
- 参加申込: 221名(官公庁、大学、会員、会員以外)



油井調整官の講演の様子



坪木教授の講演の様子

■分科会活動

1) 第1分科会(河川計画・環境)

- 開催日: 令和3年10月20日(水)
- 会場: 建コン中部支部事務局会議室
- 開催方法: Teamsによるオンライン講習
- 講師: 岐阜大学 流域圏科学研究センター
児島 利治 准教授
『森林の成長や森林の環境変化が
河川の流況に与える影響』
- 参加申込: 108名

2) 第2分科会(河川構造計画・設計)

- 開催日: 令和3年11月26日(金)
- 会場: 建コン中部支部 会議室
- 開催方法: Web配信(オンラインセミナー)
- 講師: ①国立研究開発法人土木研究所
水環境研究グループ 自然共生研究センター
主任研究員 森 照貴 氏
『多自然川づくりにおける
河岸・水際部・護岸を用いた工夫と問題』
②NTTインフラネット株式会社 本社DX推進本部
部長 南橋 丈二 氏
『GISを活用した各種施設管理について』
- 参加申込: 120名

■河川見学会

- 開催日: 令和3年11月24日(水)
- 場所: 長良川 羽島市小熊地先
地盤改良工事(ICT施工)
地蔵川 排水機場本体工事等
- 参加者: 20名(14社)



長良川地盤改良工事(ICT施工)



地蔵川排水機場本体工事等

■第31回建設コンサルタント業務技術発表会

令和3年10月8日に開催された、令和3年度 第31回建設コンサルタント業務技術発表会において、河川委員会では10編の論文提出と内5編の論文発表を行い、業務技術部門において最優秀賞をいただきました。

【最優秀賞】

「流域の特性を活かした菊川流域治水プロジェクト対策の検討と効果検証」

(株式会社建設技術研究所 山本 遼哉 氏)

■対外活動: 建設技術フェア

12/14,15に開催された建設技術フェアの学生ひろばで、建設コンサルタントの立場や役割等の説明を行いました。

■講師派遣

愛知県、三重県、静岡県が開催する技術研修に講師を派遣しました。

	研修内容		開催日
愛知県	環境管理(Web)	公共事業と環境 自然環境再生工法	R3.10.28

	研修内容		開催日
三重県	河川に関する法令・基準類の概説		R3.10.11
	河川管理施設等構造令の概説		
	河川計画の基礎・演習		
	河川施設設計の基礎・演習		

	研修内容		開催日
静岡県	河川整備計画の策定		R3.11.11
	河川設計の基礎		

令和4年度上半期の主な活動予定

令和4年度は、当検討グループへ32社252名のご登録をいただいております。

今年度の委員会活動は、新型コロナの状況を踏まえ、会議形式、Webやメール形式等の最適な方法で行います。

■委員会活動: 4～9月の間で6回開催予定

■令和4年度 河川検討グループ総会

6月22日(水)に開催予定

■講師派遣: 中部地整・愛知県・三重県の技術研修への講師派遣

技術部会 構造土質委員会

構造土質委員長 北堀 裕隆

構造土質委員会は、「橋梁をはじめとする構造物関係技術者の技術の研鑽・向上、ならびに会員相互の交流」を活動方針として、構造土質検討グループ会員に向けた橋梁・構造物技術に関する講習会や現場見学会などの行事の企画・運営、および中部地方整備局等との業務改善に関する意見交換などの対外活動を通して、会員の皆様の資質向上、並びに建設コンサルタントの地位向上を目指して、委員長以下19名にて活動しています。

令和4年度は、構造土質検討グループへ30社259名と多くの方々にご登録いただいています。

以下に昨年度下半期の主な活動と、今年度の活動予定についてご報告します。

令和3年度下半期の主な活動報告

■委員会活動

12月まで1か月に1度、役員会・技術部会報告、対外活動などの報告、技術講習会の立案検討などについて討議しました。

■技術講習会(Web開催)

令和3年度 構造土質検討グループ第2回技術講習会を下記のとおり開催致しました。前年度同様に新型コロナウイルスへの感染対策としてWeb配信にて講習会を実施しました。

- 日 時: 令和3年12月16日(木) 13:30~16:20
- 開催方法: Web配信(オンラインセミナー)
- 参加者: 31社・99名(内、委員10名)
- 内容: 講習①「AIを用いた画像処理で被害状況を把握する手法について」
講師: 国土技術政策総合研究所 大手 主任研究官
講習②「BIM/CIMの実現に向けた3次元データの流通と利活用」
講師: 国土技術政策総合研究所 青山 主任研究官

講習①では、AIを用いた画像処理で被害状況を把握する手法についてと題して、ご講演いただきました。

1. 本研究室で扱っている画像ソース
2. AIを用いた画像処理
3. AIを用いた画像処理の試行

はじめに、AI、機械学習、Deep Learningの用語を説明いただきました。次に、AIを用いた画像処理として、理論の基礎を説明頂き、複数の活用事例を紹介頂いた。現状の課題として、①データ作成コストがかかる、②光の変化に弱い、③

モデル構築に高性能計算機と時間が必要、④自動的に再学習させることが難しい、などを挙げて頂きました。

今後のニーズとして、①AIモデルを一から開発することより、既存のAIモデルの特徴を幅広く押さえて、AI及び非AIの技術を組合わせていく、②AIモデルを組み込んだシステム開発もセットになっていることが多いので、現場稼働するシステム構成・ネットワーク・情報量も考慮に入れた上で用いる技術を検討する、これらの重要性を説明して頂きました。

講習②では、BIM/CIMの実現に向けた3次元データの流通と利活用と題してご講演いただきました。

1. 国土交通省におけるBIM/CIM活用の推進
2. BIM/CIMに関する規格・基準
3. BIM/CIMの活用事例

はじめに、BIM/CIM活用の推進として、建設業の現状や生産性向上の必要性について説明して頂きました。また、3次元モデルの活用例、利活用に向けた環境整備、将来像の実現に必要なシステムなどについても説明頂きました。

次に、BIM/CIMに関する規格・基準として、これまでの基準策定の変遷や3次元モデルでの数量算出や成果作成等への活用について説明頂きました。最後に、BIM/CIM活用事例を紹介頂き、効果と留意点等についても説明いただきました。



国総研 大手氏による講演



国総研 青山氏による講演

第1回技術講習会に引き続き、Web配信による講習会となりましたが、大きなトラブルもなく、多くの方に受講いただく事が出来ました。

今回の講習会では、講師の方々の図や写真を用いた解りやすい解説により、若手から中堅までの幅広い技術者が、BIM/CIMやAIの利活用について、多くのことを学ぶことができたと思います。

■現場見学会

令和3年度 構造土質検討グループ見学会を下記のとおり開催致しました。

- 日 時: 令和3年11月4日(木) 12:30~17:30
- 場 所: (株)安部日鋼工業 岐阜本巣工場
・岐阜県本巣市曾井中島1170
・工場敷地: 72051m²
・生産能力: 40000t/年
・主生産品: PC桁(プレテンション桁), その他
- 参加者: 24社・42名(内、委員7名)
- 説明者: 岐阜本巣工場 工場長

1. 工場概要及びプレストレスコンクリートの説明

A・B班とC・D班の二組に分けCD班は工場見学に向かい先ずA・B班が工場会議室において工場の沿革、規模、製造品及び認定の範囲の説明を受けポストテンションを主体としたプレストレスコンクリートの講義を受けました。

2. 工事見学

工程は、午前中にコンクリートの打設とのことで工場内は非常に静かで鉄筋組立等が行われていました。緊張ジャッキは、コンピューター管理で導入応力・鋼材の伸びを管理しているとのこと。ジャッキ背面は強固な防御壁が存在しました。

バッチャープラントは、強制二軸式で置き場では、脱型したPC桁が単管パイプとレバブロックで強固に固定され非常に安全な形で養生されていました。よく整理整頓されており埃もなく快適な工場空間が形成されていると感じました。

当日は好天に恵まれ場内移動もスムーズに行われ有意義な現場見学会になったと思います。



事務所棟前にての集合写真



見学前の座学状況

令和4年度上半期の主な活動予定

■委員会活動

4月～12月の間で9回開催予定です。第1回から第2回は実施済みです。

■令和4年度 構造土質検討グループ総会

- 開催日時: 令和4年7月1日(金)
- 会場: 建コン中部支部会議室(ライブ配信)

- 内容: 1.令和3年度活動報告
- 2.令和4年度活動計画
- 3.講演
「コンクリート構造物の点検と診断に関する最近の話題」
岐阜大学 工学部 社会基盤工学科

小林 孝一 教授

■技術講習会

技術講習会は、以下の2回開催予定です。

- 第1回: 令和4年9月下旬予定
 - 第2回: 令和4年11月下旬予定
- 技術講習会テーマは、今後検討していきます。

■見学会

見学会は、10月下旬に開催を予定しています。場所は、構造土質委員会にて検討していきます。

■コンサルタント業務技術発表会

技術部会主催の4委員会合同行事として開催します。

- 開催日: 令和4年10月21日(金)
- 会場: ウィンクあいち(名古屋市中村区)

■講師派遣

愛知県建設技術研修に、10講座延べ9名の講師を派遣予定です。

<事例でわかる土木設計実務講座>(7月7日)

設計事例演習・解説/株東京建設コンサルタント

<設計エラー防止実務講座>(7月14日)

エラー防止への対応について/ダイシンコンサルタント(株)
土質・地質調査の計画、実施及び結果の評価/ダイシンコンサルタント(株)

橋梁/中日本建設コンサルタント(株)

<橋梁維持補修(橋梁点検)講座>(10月19日)

橋梁定期点検について、点検調書作成/日本工営都市空間(株)(旧:玉野総合コンサルタント(株))

<橋梁設計実務講座>(10月20日)

橋梁計画概論/大日本コンサルタント(株)
仮設構造物の計画設計/株ニュージェック
橋梁上部工の設計/中央コンサルタンツ(株)
橋梁下部工の設計/株長大
耐震設計と補強工法/株建設技術研究所

■各種発注機関との意見交換会

中部地方整備局、各地方自治体(愛知県、三重県、静岡県、岐阜県)、NEXCO中日本名古屋支社との意見交換会等を随時開催していきます。

■改訂道路橋示方書WG

建コン本部主催のWGに、中部支部として参画します。

■構造土質たよりの発行

委員会活動、各WG開催行事の報告等について、「構造土質委員会だより」として発行します。

技術部会 都市計画委員会

都市計画委員長 河村 和紀

都市計画委員会では、都市整備WG、交通WG、ランドスケープWGの3つのワーキングで実施する専門技術に関する交流活動、見学会や講習会の開催等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図るとともに、(一社)建設コンサルタンツ協会中部支部の活動を推進することによって、建設コンサルタントの地位向上ならびに都市計画業務の円滑な実施のための環境づくりを行っています。

都市計画検討グループは、令和3年度234名・30社(令和2年度196名・24社)のご登録をいただきました。

令和3年度下半期の主な活動報告

■都市計画委員会

下半期(10月～3月)の委員会は3回開催し、各WG活動結果の報告、課題、今後の対応やたよりの発行などについて協議をしました。

■第31回建設コンサルタント業務技術発表会

第31回建設コンサルタント業務技術発表会において、都市計画分野からは、松岡史展さん(株式会社オオバ)と國島昌徳さん(大日コンサルタント株式会社)が優秀賞を受賞されました。

- 日 時: 令和3年10月8日(金) 13:30～19:00
- 場 所: 愛知県産業労働センター(ウインクあいち)

都市計画分野は、発表・掲載論文5編と、掲載論文1編があり、建コン中部支部HPにて公開しておりますので、是非ご確認ください。

■ワーキング活動

1) 都市整備WG

多くの地方都市で「まちを面白くする」取り組みが試行錯誤され、加えて新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される中、都市空間の価値をいかに高め、人々が集う場をいかに創り出すかという命題が改めて顕在化しています。

講習会では、国内外の地方都市の形成経緯を実証的に明らかにする中から、「活力のみなざる都市空間の持続性が増すように都市計画が整理する ～コモンズの悲劇は、コモンズのないところにおこらない～」ことを中心に、市街地を魅力的にすることと連携して地域を豊かにすることについて、多くの示唆・提言をいただきました。

- テ ー マ: 活力のある都市をつくる
- 講 師: 岐阜大学 社会システム経営学環
出村 嘉史 教授
- 日 時: 令和3年11月9日(火) 15:00～17:00
- 場 所: 岐阜大学美殿町ラボ
- 講演方式: Web配信(オンラインセミナー)
- 参 加 者: 52名(16社)



ご講演中の出村教授

2) 交通WG

現在、人口減少や少子高齢化が進み、商店街のシャッター街化などによる地域の活力の低下が懸念される中、都市の魅力を向上させ、まちなかににぎわいを創出することが、多くの都市に共通して求められています。

講習会では、QRUWA地区の概要や特徴のほか、整備にあたっての苦労話など、公務員の枠を超えた取り組みについて、ご説明や質問に対して回答を丁寧に行ってくださいました。

見学会では、ストリートファニチャーの設置による憩い空間、未活用空間への木製ベンチの設置による休憩空間、公園・川と一体になった魅力的な歩行空間、地域の新シンボルとなる人道橋などは、非常に価値ある交通空間であり、とても勉強になるものでした。

- テ ー マ: 「ウォーカブル先進都市」である岡崎市
QRUWA地区の現地見学会・講習会
- 講 師: 岡崎市都市政策部都市施設課
QRUWA戦略係 中川 健太 係長
- 日 時: 令和3年11月30日(火) 14:00～17:00
- 場 所: 岡崎市QRUWA地区
- 講演方式: 見学及び講習会
- 参 加 者: 15名(11社)



桜城橋でご説明する中川氏と参加者

3) WG活動_ランドスケープWG

愛知県において県営都市公園の魅力向上を図るため、Park-PFI制度を活用した新たな公園施設の設置及び管理運営が進められています。令和3年6月にリニューアル

オープンした小幡緑地の「オバッタベッタ」について、最新の施設整備事例として、県と事業者の方に現地にて説明をしていただきました。

施設整備、管理運営など、これまでの苦労したお話や現在の取り組みなど現場の声を聞かせていただき、多くのことを学ぶ貴重な機会となりました。



秋晴れのオバッタベッタでの集合写真

- 日 時：令和3年10月28日(木) 14:30～16:15
- 場 所：小幡緑地「オバッタベッタ」
(愛知県名古屋守山区)
- テーマ：民間活力導入の事例をもとに見識を深める
- 講 師：愛知県政策企画局ジブリパーク推進課
課長補佐 岩田 宏 氏
愛知県都市・交通局都市基盤部公園緑地課
課長補佐 三宅 安 氏
中部土木株式会社 PPP事業部
社長付 部長 立入 秀紀 氏
岩間造園株式会社
専務取締役 後藤 幸 氏
- 参加者：39名(13社)

■都市計画たよりの発行

委員会活動や各WG開催行事報告等について、令和3年2月に「都市計画委員会だより」を発行しました。

令和4年度上半期の主な活動予定

■都市計画委員会

4月から9月までに6回の開催を予定し、令和3年度の振り返り、今年度の活動内容等について検討します。

■総会

令和4年度都市計画検討グループ総会は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、人数制限をした会議形式とWEBによるオンライン配信の併用により実施する予定です。是非ご参加下さい！

- 日 時：令和4年8月1日(月) 13:30～16:30
- 内 容：①令和3年度の活動報告と令和4年度の活動方針
②令和3年度決算報告と令和4年度予算
③講習会
テーマ：(仮)コンパクトシティと
交通・緑のまちづくり
講 師：都市計画委員

若手の会WG

委員 井上 公究
(技術部会所管)

「中部若手の会WG」は、令和4年度になり平成29年の発足から6年目に突入しました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面を伴うイベント等の開催が難しい状況に直面しましたが、オンラインによるWGの実施や感染症対策を実施した上でJOB Café等の開催といった成果を残すことができました。

令和3年度下半期の活動内容と令和4年度上半期の予定を報告させていただきます。

令和3年度下半期の主な活動報告

■JOB Caféの実施

1)開催概要

- 開催日：令和3年11月20日(土) 14:30～17:30
- 場 所：名駅モリシタ名古屋駅前東口店

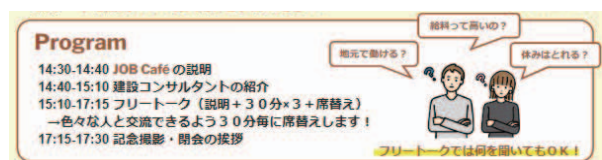
2)開催内容

「気軽に建コンを知ってもらう」ことをコンセプトに、就職活動を控えた学生が気兼ねなく若手技術者と自由に話そうことができるよう、カフェ形式を意識して企画を行いました。

※今年度は、新型コロナ感染拡大防止の観点から、広い会議室を利用して開催しました。

3)開催結果

複数の大学より計17名の学生に参加して頂き、会社説明会等では得られない情報交換を積極的にできたため、参加した学生の方より、「建コンを知るよい機会だった」等の好評を得られました。今後もJOB Caféを定期的の実施して、建設コンサルタント業界の認知をより広めたいと考えております。



当日のプログラム(応募チラシ抜粋)



JOB Caféの様子

■建設技術フェア2021in中部の参加

1)開催概要

- 開催日:令和3年12月14日(火)・15日(水)
- 場 所:吹上ホール

2)開催内容

技術部会・若手の会・女性の会が協同で参加し、学生に対する業界説明を行いました。

3)開催結果

多くの大学生や高校生に参加して頂きました。学生の大半が「そもそも建設コンサルタントは何をする仕事?土木業界はどのような仕事がある?」からスタートしたため、土木業界や建設コンサルタントの仕事状況を個別に対応・説明することで、学生側として「建コン」業界全体を知る機会と、有益な情報を得られる場を創出することができました。

令和4年度上半期の主な活動予定

昨年度までの状況等を踏まえて、以下の活動を予定しています。

■JOB Café

昨年度の開催が好評であったため、今年度は名古屋開催に加えて地方開催も視野に入れて実施する予定です。

- 上半期⇒開催内容、規模等を検討、決定
- 下半期⇒準備・開催予定

■イブニングサロン

愛知県からの要望に応じて参加します。

■本部イベント

「業界展望を考える若手技術者の会」(本部若手の会)が主催するWILLSUMMITを含めて本部若手の会との連携を図ります。

■建設技術フェア2022in中部

昨年度に引き続き、学生に対する業界説明を行う予定です。

■離職率ダウンに関するアンケート調査の実施

協会会員会社に在籍している社員に向けて、「業界の満足度に対するアンケート調査」を実施し、若手離職率を下げるためには何をすべきかを検討する予定です。

■他組織との意見交換

中部支部の女性の会WG等の他の組織との交流を深めるように、共同活動の開催を図ります。



建設技術フェアの様子

女性の会WG

リーダー 所 三枝
(総務部会所管)

女性の会WGの令和3年度の下半期の活動内容、令和4年度の活動予定をご報告させていただきます。

令和3年度下半期の主な活動報告

■建設コンサルタントで働く女性を対象としたWebアンケート調査の実施

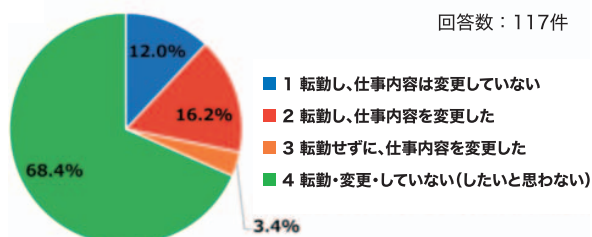
建設コンサルタント業界で働く女性が結婚・出産等の女性ならではのライフイベントを迎えても、働き続けるという命題に対してのアンケート調査を実施しました。設問の区分は以下の通りです。

- ◆結 婚 → 結婚後の働き方の変化の有無等
- ◆出産・子育て → 出産後の働き方等
- ◆生 理 休 暇 → 生理休暇の有無・必要性等
- ◆不 妊 治 療 → 不妊治療休暇の必要性等
- ◆働 き 方 → 時短勤務の利用状況等
- ◆自 由 意 見 → その他自由な意見

アンケート調査結果(一部抜粋)は、以下の通りですが、中部支管内の建設コンサルタント業界で働く女性の「現状の働き方における課題」や、「新しい働き方に対する考え方」が見えてきました。

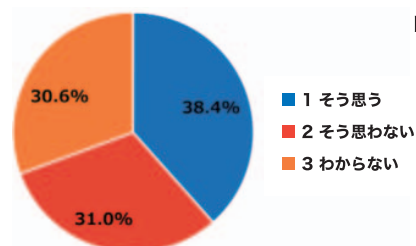
Q 結婚を機に転勤や仕事内容に変化はありましたか。

回答数:117件



Q 出産後も働き続けられる環境が整っていると感じますか。

回答数:281件



アンケート調査結果(一部抜粋)

■「イブニングサロン」への参加

イブニングサロンは、行政やゼネコン、建設コンサルタントなど、既に建設分野に携わっている社会人（技術者）が建設分野に対する魅力を発信することにより、建設分野に関わる若手人材の育成を行うことを目的とした活動です。

今年度の「イブニングサロン」は対面形式にて開催されました。女性の会WGメンバーも参加し、仕事内容や働き方の説明、学生たちの疑問などに答えました。

【参加校、日程】

- ・豊田工業高等専門学校（令和3年11月18日開催）
- ・椋山学園大学（令和3年11月30日開催）



イブニングサロンの様子

■「建設技術フェア 2022in中部」への参加

今年度も建設分野の様々な会社が集まる建設技術フェア2022 in中部に参加しました。

2日間で計225名の学生が来場してくれました。昨年の144名から増加し、今年はより多くの学生に建設コンサルタント業界を知ってもらうことができました。また、今まで以上に建設コンサルタントの仕事に携わりたいと感じてくれた学生がほとんどで、業界をPRするよい機会になりました。また、学生と話をすることで、就職活動をしていた当時が思い出され、改めて現在の仕事について襟を正す機会となりました。

多くの優秀な学生が建設業界やコンサルタントを志望し、一緒に社会貢献できると嬉しく思います。

■「建コン中部支部役員との意見交換会」への参加

建コン中部支部の役員との意見交換会に若手の会とともに参加しました。

今年度は、建設コンサルタント業界で働く女性を対象としたアンケート結果の速報版に基づき、働き方に関する「生の声」を報告しました。各会社の制度と社員の理解・運用の間で乖離している現状を率直に伝えることができた中身の濃い時間となりました。

- 日 時：令和3年12月23日（木）15:00～16:30
- 場 所：名古屋銀行協会会館 2階 201号室
- 参加者：役員12名、若手の会4名、女性の会6名、事務局1名

●意見交換会次第

- ①挨拶
- ②建コン本部・支部活動のトピックス説明
- ③若手の会WG・女性の会WGの活動報告、提案
- ④来年度以降の活動に向けた意見交換



意見交換会の様子

令和4年度上半期の主な活動予定

今年度は以下のようなことに取り組んでいきたいと考えております。

■若手の会との合同WGの実施

令和3年度に実施した女性向けアンケート調査結果、アンケート調査時にいただいた自由意見に基づき、若手の会との合同WGによる意見交換をしたいと思います。

中部支部管内の建設コンサルタントで働く女性社員だけでなく、年齢や性別にとらわれない誰もが働きやすい建設コンサルタント業界に向けての一助となれるように検討を進めたいと思います。

■第2回女性技術交流会の開催に向けて

若手の会との合同WGの成果を踏まえ、「第2回女性技術者交流会」を企画し、中部圏の建コン業界で働く女性技術者同士が各企業の枠を超えて交流できる会を設けたいと思います。

今年度も女性の会WGを無理なく楽しい活動にしていきたいと思います。

	会 社 名	所 在 地	電 話 番 号	U R L
あ	(株)アイエスシー	名古屋市昭和区福江2-9-33(nabi/白金2F)	052-882-1201	https://www.isc-ngo.co.jp/
	(株)愛河調査設計	名古屋市南区本地通6-8-1	052-819-6508	https://www.aiga-cc.co.jp/
	(株)葵エンジニアリング	名古屋市中村区佐古前町22-6	052-486-2200	https://www.aoi-eng.co.jp/
	朝日航洋(株)	名古屋市東区東大曽根町12-19(OZヒメノビル2F)	052-930-3431	https://www.aeroasahi.co.jp/
	(株)朝日土質設計コンサルタント	岐阜県岐阜市須賀4-17-16	058-275-1061	https://www.asahidoshitsu.co.jp/
	アジア航測(株)	名古屋市北区大曽根3-15-58(大曽根フロントビル)	052-919-0155	https://www.ajiko.co.jp/
	アmanoコンサルタント(株)	愛知県岡崎市青木町22-5	0564-45-2445	https://www.amano-c.jp/
	アローコンサルタント(株)	名古屋市熱田区新尾頭2-2-32(勢州館金山ビル内)	052-684-5684	https://www.arrow-c.co.jp/
	(株)石田技術コンサルタンツ	愛知県小牧市東新町50	0568-73-1085	https://www.itcnet.co.jp/
	いであ(株)	名古屋市港区入船1-7-15	052-654-2551	https://ideacon.jp/
	(株)イビスク	岐阜県大垣市築捨町3-102	0584-89-5507	https://www.ibisoku.co.jp/
	(株)ウエスコ	名古屋市中区錦1-7-34(STAGE錦1)	052-221-7420	https://www.wesco.co.jp/
	(株)エイト日本技術開発	名古屋市中区錦1-11-20(大永ビルディング3F)	052-855-2261	https://www.ejec.ej-hds.co.jp/
	(株)NJS	名古屋市中区金山1-14-18(A-PLACE金山8F)	052-217-8610	https://www.njs.co.jp/
	NTCコンサルタンツ(株)	名古屋市中区錦2-4-15(ORE錦二丁目ビル4F)	052-229-1701	http://www.ntc-c.co.jp/
	応用地質(株)	名古屋市守山区瀬谷東2-907	052-793-8321	https://www.oyo.co.jp/
	(株)オオバ	名古屋市中区錦1-19-24(名古屋第一ビル7F)	052-219-0083	http://www.k-ohba.co.jp/
	(株)大增コンサルタンツ	名古屋市中川区小本2-14-5	052-363-1131	https://www.ohmasu.co.jp/
	(株)オリエンタルコンサルタンツ	名古屋市中村区名駅南2-14-19(住友生命名古屋ビル)	052-564-7711	https://www.oriconsul.com/
か	(株)カギテック	三重県松阪市田村町341-1	0598-23-1155	https://kagitec.jp/
	(株)片平新日本技研	名古屋市東区代官町35-16(第一富士ビル)	052-930-3701	https://www.katahira.co.jp/
	(株)カナエジオマックス	名古屋市中区千代田1-12-5	052-249-9611	https://www.kanal.co.jp/
	川崎地質(株)	名古屋市名東区上社2-184	052-775-6411	https://www.kge.co.jp/
	(株)環境アセスメントセンター	静岡県葵区清閑町13-12	054-255-3650	https://eac-net.co.jp
	(株)神田設計	名古屋市中区花の木1-3-5	052-522-3121	https://www.kanda-s.co.jp/
	(株)橋梁コンサルタント	名古屋市中村区名駅南1-16-30(東海ビルディング4F)	052-582-6886	https://www.kyoryo.co.jp/
	協和設計(株)	名古屋市中区丸の内1-10-29(白川第八ビル)	052-220-1021	https://www.kyowask.co.jp/
	協和調査設計(株)	名古屋市中川区篠原橋通2-44	052-365-3711	http://www.ky-cs.co.jp/
	(株)近代設計	名古屋市中区錦1-11-20(大永ビルディング)	052-232-0921	https://www.kindai.co.jp/
	(株)建設環境研究所	名古屋市中区錦3-20-27(御幸ビル5F)	052-218-0666	https://www.kensetsukankyo.co.jp/
	(株)建設技術研究所	名古屋市中区錦1-5-13(オリックス名古屋錦ビル)	052-218-3833	http://www.ctie.co.jp/
	(株)建設コンサルタントセンター	静岡県清水区長崎新田123	054-345-2155	https://kencon.jp/
	(株)興栄コンサルタント	岐阜県岐阜市中鷺4-11	058-274-2332	https://www.koei-con.co.jp/
	(株)国際開発コンサルタンツ	名古屋市中区栄2-12-12(アーク栄白川パークビル)	052-209-6393	http://www.idec-inc.co.jp/
	国際航業(株)	名古屋市中区名駅2-27-8(名古屋プライムセントラルタワー11F)	052-747-3112	https://www.kkc.co.jp/
	国土防災技術(株)	名古屋市中区栄2-3-16(アーク栄広小路ビル)	052-218-5771	https://www.jce.co.jp/
さ	(株)三栄コンサルタント	岐阜県岐阜市水海道4-22-12	058-246-2558	https://www.sanei-consul.co.jp/
	サンコーコンサルタント(株)	名古屋市中区栄2-11-7(伏見大島ビル)	052-228-6131	https://www.suncoh.co.jp/
	(株)三進	岐阜県大垣市二葉町7-12	0584-73-3969	https://www.sansinn.co.jp/
	(株)三祐コンサルタンツ	名古屋市東区代官町35-16(第一富士ビル4F)	052-933-7801	https://sanyu.tcp.jp/
	(株)三洋開発	三重県津市津興275	059-225-3766	https://www.sanyoh-kaihatu.com
	ジェイアール東海コンサルタンツ(株)	名古屋市中村区名駅5-33-10(アクアタウン納屋橋)	052-746-7108	https://www.jrcc.co.jp/
	静岡コンサルタント(株)	静岡県三島市多呂128	055-977-8080	http://www.shizuoka-con.co.jp/
	柴山コンサルタント(株)	名古屋市東区白壁1-69	052-961-0111	https://www.shibayama-consul.co.jp/
	(株)修成建設コンサルタント	名古屋市中区丸の内2-20-2(オアシス丸の内NORTH3F)	052-220-2351	https://www.shusei.co.jp/
	(株)新日	名古屋市中川区山王1-8-28(新日グリーンハイツ)	052-331-5356	https://shinnichi.co.jp/
	杉山コンサルタンツ(株)	三重県津市久居新町680-4	059-255-1500	https://www.sugiyamaconsultants.com/website
	(株)スリーエスコンサルタンツ	名古屋市中区丸の内3-5-33(名古屋有楽ビル2F)	052-265-5566	https://www.sss-consultants.co.jp/
	セントラルコンサルタント(株)	名古屋市中区錦1-18-22(名古屋ATビル7F)	052-223-0380	https://www.central-con.co.jp/
	全日本コンサルタント(株)	三重県四日市市鶴の森1-16-11	059-352-1052	https://www.zennippon-c.co.jp/
	(株)創建	名古屋市中区大須4-10-32(上前津KDビル7F)	052-253-7124	https://www.soken.co.jp/

6 会員名簿一覧

	会 社 名	所 在 地	電 話 番 号	U R L
	(株)総合技術コンサルタント	名古屋市中区錦1-10-1 (MIテラス名古屋伏見3F)	052-211-7935	http://www.sogo-eng.co.jp/
	(株)創信	岐阜県本巣市石神707-2	058-320-0325	https://www.sousinn.co.jp/
た	ダイシンコンサルタント(株)	岐阜県中津川市中津川13168-1	0573-65-2468	http://www.daishin-con.biz/
	大同コンサルタンツ(株)	岐阜県岐阜市中鷗2-11	058-273-7141	https://daidocc.com/
	大日コンサルタント(株)	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21	058-271-2501	https://www.dainichi-consul.co.jp
	大日本コンサルタント(株)	名古屋市西区名駅2-27-8(名古屋プライムセントラルタワー18F)	052-581-8993	https://www.ne-con.co.jp/
	(株)ダイヤコンサルタント	名古屋市熱田区金山町1-6-12	052-681-6711	http://www.diaconsult.co.jp/
	(株)拓工	名古屋市熱田区桜田町15-22	052-883-2711	https://www.c-takko.co.jp/
	中央開発(株)	名古屋市中村区牛田通2-16	052-481-6261	https://www.ckcnet.co.jp/
	中央コンサルタンツ(株)	名古屋市中区丸の内3-22-1	052-971-2541	https://www.chuoh-c.co.jp/
	中央復建コンサルタンツ(株)	名古屋市中区錦2-3-4(名古屋錦フロントタワー8F)	052-220-2920	https://www.cfk.co.jp/
	(株)中部テック	名古屋市名東区社台3-48	052-771-1251	http://www.chubu-tech.co.jp/
	中部復建(株)	名古屋市昭和区福江1-1805	052-882-6611	https://www.chubu-fk.co.jp/
	(株)長大	名古屋市中村区名駅南1-18-24(マイビルディング4F)	052-586-0700	https://www.chodai.co.jp/
	(株)千代田コンサルタント	名古屋市中区丸の内3-14-32(丸の内三丁目ビル6F)	052-221-1401	https://www.chiyoda-ec.co.jp/
	(株)テイク	岐阜県岐阜市橋本町2-8(濃飛ニッセイビル内)	058-214-6667	https://www.teikoku-eng.co.jp/
	(株)東京建設コンサルタント	名古屋市中区錦2-5-5(八木兵伝馬町ビル)	052-222-2771	https://www.tokencon.co.jp/
	(株)東日	静岡県沼津市大岡2240-16	055-921-8053	http://www.tohnichi-net.co.jp/
	(株)トーニチコンサルタント	名古屋市中区栄4-6-15(フォーティンヒルズセンタービル)	052-262-4535	https://www.tonichi-c.co.jp/
	東洋技研コンサルタント(株)	名古屋市中区錦1-6-10(スズワンビル6F)	052-221-6979	https://www.toyogiken-ccei.co.jp/
な	中日本建設コンサルタント(株)	名古屋市中区錦1-8-6(ONEST名古屋錦スクエア)	052-232-6032	https://www.nakanihon.co.jp/
	(株)浪速技研コンサルタント	愛知県豊田市桜町2-54(松村ビル2B)	0565-41-4655	https://www.naniwa-giken.co.jp/
	南海カツマ(株)	三重県津市上浜町5-64-6	059-226-4854	http://www.nankai-katsuma.co.jp/
	(株)日本インシーク	名古屋市中区丸の内3-21-25(清風ビル6F)	052-951-3590	https://www.insiek.co.jp/
	日本工営(株)	名古屋市中区葵1-20-22(セントラル名古屋葵ビル9F、10F)	052-559-7300	https://www.n-koei.co.jp/
	日本工営都市空間(株)	名古屋市東区東桜2-17-14(新栄町ビル)	052-979-9111	https://www.n-koei.co.jp/urbanspace/
	日本交通技術(株)	名古屋市中村区椿町14-13(ウエストポイント1413)	052-451-9111	https://www.jtc-con.co.jp/
	日本振興(株)	名古屋市中村区名駅5-27-13(名駅錦橋ビル5F)	052-562-1191	https://www.nihon-shinko.com/
	(株)日本水工コンサルタント	名古屋市中村区竹橋町5-10(オイセタウンビル7F)	052-451-2391	https://www.nissuiko.co.jp/
	(株)ニュージェック	名古屋市中村区名駅5-27-13(名駅錦ビル4F)	052-541-8251	https://www.newjec.co.jp/
は	(株)パートナーズ	愛知県豊橋市三ノ輪町字本興寺41-1(CREST.1第1丸中ビル4F)	0532-39-9900	https://partners-tokai.com
	(株)ハイウェイ・エンジニアリング	名古屋市中区錦1-20-10(HR・NET伏見ビル6F)	052-232-1891	http://www.hw-eng.co.jp/
	パシフィックコンサルタンツ(株)	名古屋市中区名駅1-1-17(名駅ダイヤメイツビル)	052-589-3111	https://www.pacific.co.jp/
	(株)パスコ	名古屋市中区錦2-2-13(名古屋センタービル10F)	052-239-5140	https://www.pasco.co.jp/
	藤コンサル(株)	名古屋市中村区名駅3-22-8(大東海ビル)	052-433-1261	https://www.fuji-con.co.jp/
	不二総合コンサルタント(株)	浜松市北区初生町889-2	053-439-6112	https://fujisougou.co.jp/
	(株)フジヤマ	浜松市中区元城町216-19	053-454-5892	https://www.con-fujiyama.com/
	(株)復建エンジニアリング	名古屋市中区栄2-5-13(アイ・エスビル7F)	052-203-0651	https://www.fke.co.jp/
	(株)復建技術コンサルタント	名古屋市中区錦1-7-32(名古屋SIビル7F)	052-222-6040	https://www.fgc.jp/
	復建調査設計(株)	名古屋市中区葵2-12-1	052-931-5222	https://www.fukken.co.jp/
ま	(株)間瀬コンサルタント	名古屋市中村区名駅南1-16-28(NMF名古屋柳橋ビル4F)	052-414-6020	https://www.masecon.co.jp/
	丸栄調査設計(株)	三重県松阪市大町102-2	0598-51-3786	https://maruei-c.co.jp/
	三井共同建設コンサルタント(株)	名古屋市中区丸の内3-20-3(BPRプレイス久屋大通7F)	052-953-1060	https://www.mccnet.co.jp/
	明治コンサルタント(株)	名古屋市中区大須4-10-32(上前津KDビル)	052-249-3720	https://www.meicon.co.jp/
	(株)メイホーエンジニアリング	岐阜県岐阜市吹上町6-21	058-253-8811	https://www.meihoeng.co.jp/
	(株)名邦テクノ	名古屋市中南区大磯通6-9-2	052-823-7111	https://www.meiho-techno.co.jp/
や	八千代エンジニアリング(株)	名古屋市中区新栄町2-9(スカイオアシス栄9F)	052-950-2150	https://www.yachiyo-eng.co.jp/
	(株)ユニオン	岐阜県岐阜市西河渡2-57	058-253-3192	https://www.theunion.co.jp/
わ	(株)若鈴	三重県津市広明町345-1(若鈴ビル)	059-226-4101	https://www.wakasuzu.co.jp/
	若鈴コンサルタンツ(株)	名古屋市中区中小田井5-450	052-501-1361	http://wakasuzuc.jp/

事務局だより



●令和4年度中部支部定時総会

令和4年度定時総会を4月28日(木)にKKRホテル名古屋で開催しました。

コロナ感染の拡大防止のため、各社1名での参加協力をお願いいたしましたが、多数の方々にご出席を賜り誠に有難うございました。

また、昨年度に引き続き総会状況をご視聴いただけるよう、Web配信を行いました。

議事は「令和3年度の事業報告及び収支決算」、「令和4年度事業活動方針(案)」及び「役員補選(案)」について審議が進められ、審議の結果、原案どおり承認可決されました。

支部の活動報告では、副支部長及び担当部会長・副部会長から「学生ひろば」への出展等の社会貢献活動の取組、主な対外活動への取り組みとして各発注者との「要望と提案」意見交換会の実施並びに大学での業界説明会の開催等について、このほか愛知県・三重県・静岡県等の技術研修への講師派遣及び各部会・委員会の活動について報告されました。引き続き、令和4年度の事業活動方針が提案・採択されました。

総会終了後、春季記念講演会として、「建設事業をめぐる最近の話題」と題して、中部地方整備局の川上技術調整管理官様、「最近の建設コンサルタントを巡る状況等について」と題して、本部酒井副会長様から講演をいただきました。

講演会も含めて長時間の開催となりましたが、業界紙3社の取材も受け、盛会のうちに滞りなく終了いたしました。

●令和4年度における中部支部の7月以降の主な活動予定

8月26日	名古屋市との災害時演習
9月 1日	建コン協災害時対応演習
9月 5日	地方ブロック「要望と提案」意見交換会
10月 4日・5日	建設技術フェア(学生ひろば)
10月21日	第32回業務技術発表会
10月22日	建設コンサルタントフェア

なお、この他にも各委員会主催の講習会、見学会等を予定しております。事務局から会員企業の皆様に開催案内を差し上げますので、多数のご参加をお待ちしております。

【編集後記】

はじめに、新型コロナウイルス感染症の流行については、依然として終息に至っておりませんが、官公庁や医療従事者を始め多くの方のご尽力により、少しずつ従前の生活を取り戻しつつあると感じます。引き続き感染拡大防止に努めていきたいと思います。

この度「図夢in中部」も第49号の発刊となり、まもなく50号の節目を迎えます。

本号の特集では、静岡県浜松土木事務所様にご協力いただき、浜松市の海岸防潮堤防について「オール浜松」が生んだ日本最大級の防潮堤防 一ダム技術を用いた海岸防潮堤防の建設」と題して特集記事をいただきました。

津波に対する防災対策事業として、静岡県・浜松市・地域住民の「オール浜松」での取り組みの経緯、貴重な動植物や中田島砂丘の保全等の自然環境対策が解りやすく紹介されております。

これらの施設が浜松市民の生命や財産、社会資本を守り、豊かな自然環境が次世代に継承されることを期待しております。

おわりに、本号の発刊に際しましてご執筆・ご協力いただきました皆様に、編集委員一同より心から感謝申し上げます。

(S. W)

【編集】対外活動部会編集委員会

部 会 長	村松 千明	セントラルコンサルタント(株)	委 員	岩部 健治	不二総合コンサルタント(株)
副 部 会 長	津田 光則	八千代エンジニアリング(株)	委 員	渡邊 周作	中央コンサルタンツ(株)
編集委員長	伊藤 博之	(株) ニュージェック	委 員	小嶋 貴之	(株) テイコク
編集副委員長	坂本 憲二	中央復建コンサルタンツ(株)	委 員	古川 真人	(株) アイエスシー
委 員	瀧 高雄	(株) 葵エンジニアリング	委 員	山下 達	中日本建設コンサルタント(株)
委 員	太刀掛泰清	セントラルコンサルタント(株)	委 員	尾崎 富男	日本工営都市空間(株)

読者の皆様の作品・ご意見をお待ちしています。

◇投稿作品募集！

次号に掲載する投稿を読者の皆様から募集しています。

投稿内容：ジャンル・テーマは自由です。
(採用者には薄謝進呈します)

投稿方法：メール・FAX・郵送にてご応募ください。

◇読者アンケート

読者アンケートにご協力お願いします。あなたのご意見が「図夢in中部」を作ります。特に、本誌や建設コンサルタント支部活動への要望や提案など、個性的な意見を沢山お待ちしております。

一般社団法人建設コンサルタンツ協会中部支部ホームページの「読者アンケート」までどしどしお寄せください。

●すべての応募先、お問合せは…

(一社)建設コンサルタンツ協会 中部支部 編集委員会

名古屋市中区丸の内一丁目4番12号(アレックスビル3F) TEL.052-265-5738 FAX.052-265-5739

ホームページ <http://www.ccainet.org/>
メール info@ccainet.org



一般社団法人建設コンサルタンツ協会 倫理綱領

建設コンサルタントは、社会資本整備をリードする自律した専門家集団として、安全・安心な社会の構築と健全な国土の発展に貢献し、もって社会的使命を果たすため次の事項を遵守する。

1.法令、社会規範及び契約の遵守

建設コンサルタントは、法令、社会規範及び依頼者との契約を遵守する。

2.品位の保持

建設コンサルタントは、名誉を重んじ、常に人格の陶冶を図り、品位の保持に努める。

3.信用と信頼の保持

建設コンサルタントは、独立した立場を堅持し、誠実な行動により社会及び依頼者の信用と信頼を保持する。

4.技術の向上と品質の確保

建設コンサルタントは、技術開発に努めるとともに、技術研鑽と技術継承により高い技術力を常に保持し、高い品質のサービスを提供する。

5.持続可能な社会の構築

建設コンサルタントは、自然環境及び社会環境を良好に保全できる提案を常に心がけ、持続可能な社会の構築を目指す。

令和元年5月23日総会承認



JCCA

図夢 in 中部 Vol.49

発行日：2022年8月12日

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部